教科適用

基督傳問題

卷上

フレークスリー 合著

本國宣教師事務局藏版

34 — 62

Nu 512/88

OUTLINE BIBLE STUDIES

LIFE OF CHRIST.

50 LESSONS.

FIRST VOL. 1–25 LESSONS.

HARPER & BLAKESLIE

AUTHORS.

PUBLISHED BY

FUKUINSHA. MARCH, 1893

聖書研究

基督傳問題

一年間の課題

「題目」左ゝ記する篇題ハ基督の生涯中の十の重なる時代を簡略ゝ解明はすあり亦章題ハ重ゝ歴史上のあらはしを記す此等ハ各章を學ぶ時に能く心ゝ止めんがため暗誦する事を要す

各章に記す事柄

各章に一ヶ年間の事柄を明載せんにハ餘程の時を費やさざる可らず故に只要ゝの其大略を研究するゝあり此を詳らかゝ研究せんと欲せバ

「研究法」

各章ゝある問題また註に於て視る可き二ッの要点あり

第一ハ基督の生涯の事柄の續きを明らかにすること

第二ハ各章ゝある肝要なる實理の採用なり此の一ヶ年間研究ゝより

基督の生涯を能く一と通り覺え其教の要略を述べ得ん事を望むなり

第一篇　基督の降誕並ゟ三十年間普通の生活

第一章　道肉体となれり

第二章　基督の幼時並ゟ青年の時代

第二篇　傳道の準備

第三章　洗禮

第四章　惡魔ゟ試らるゝ事

第五章　キリストとして世ゟ知られ玉ふ事

第三篇　傳道の初まり、ユダヤゟ道を傳へ多くの人の注意を引き且つ其數人の弟子を作り玉ふ事

第六章　エルサレムの祝節即ちメシヤとして公然世に表れ玉第一着、殿を清め玉ふ事、ニコデモとの問答

第七章　ガリラヤゟ歸り玉ふ事並ゟ井の傍ゟて婦と語りたる事

第四篇　第一　ガリラヤ傳道、ますゝ人望を得玉ふ事

第八章　會堂ゟて教を初め玉ふ事ナザレより追出されカペナオムゟ其住ひを移し玉ふ事

第九章　總ての所有を捨てゝ從へと命じて四人の弟子を招き玉ふこと多くの奇跡を爲し玉ふ事

第十章　働きの擴張、四人の弟子と共にガリラヤ傳道ゟ從事爲し玉ふ第一着

第五篇　基督傳道上の變革、安息日議問

第十一章　ユダヤ人の恐るべき反對の初まり、安息日の主、ガリラヤにて基督ゟ爲さんとするひそかなる企の初め

第十二章　降誕より傳道上の變革に至る迄の復習

第六篇　ガリラヤ傳道の續き、大ゟ働きを爲し玉ひし時人々の中ゟ彼を信ずるもの增加したる事、然れども「パリサイ」人の反對の增進せること

第十三章　反對を意とせず進み玉ふ事、十二使徒を撰みし事、山上の説教
第十四章　山上の説教の續き
第十五章　バプテスマのヨハネの最後の使者
第十六章　十二使徒と共にガリラヤ第二傳道、多の人彼のもとに集り其食事の時をも得ざりき、「パリサイ」人と第一の爭論
第十七章　教への方法の變革、譬の第一集
第十八章　傳道の大擴張、湖の東方より第一の旅行を爲す事、著しき奇跡の一集
第十九章　ガリラヤ第三傳道、即ち最後の傳道、十二人を二人づゝ使ハしたる事
第二十章　人望の極五千人を養ひ玉ふ事、其時人々イエスを王と爲さんとて彼より迫る
第二十一章　カペナオムの會堂にて人々イエスより離れし其初め

第七篇　ツロ、シドンの海濱デカポリス及びカイザリヤ、ピリピの市より微行爲し玉ふ事
第二十二章　イエスの名普く地方より擴まり之を防ぐ能わざりし事
第二十三章　イエス其十字架に付く事を告げ置き玉ふ事、其姿の變りたる事
第二十四章　再びカペナオムより行玉ふ、ガリラヤを去る事、七十人を使ハし玉ふ事
第八篇　最後の近き大なる働きを爲し玉ふこと且つユダヤ、ペリヤにての大危險
第二十五章　イエスの傳道上の變革よりガリラヤを去るまでの復習
第二十六章　「カリホスマイ」の祝より於る事、イエスを捕へんとて企てし初め、イエス自ら世の光なりと呼び玉ふ事
第二十七章　殿清めの祝節、生つきの盲人、石にてイエスを打たんと爲し

二度目イエスヨルダンの向ふに退き玉ふ事

第二十八章　ベタニヤよ歸りラザロを甦らし玉ふ事「サンヒドリム」の會議にてイエスを殺さんと謀ること、イエス再びヨルダンの向ふよ退き玉ふ

第二十九章　安息日よ付ての議論、エルサレムよ最後の旅行をなし玉ふ事

第三十章　其旅行よてある譬を語り玉ふ、譬の第二集

第三十一章　道よて多の譬をおす、イエス其死に付き語り玉ひし三度目

第三十二章　旅行の最後の近づき、エリコの起り事、二人の盲人とザーカイの事

第三十三章　ベタニヤよ着し夕方の食事を取る事

第九篇　最後の一週間イエス傳敎中最後の逾越の節

第三十四章　「カリホズマイ」の節よりベタニヤに夕方の食事を取る事まで

での復習

第三十五章　日曜日と月曜日エルサレムに関を揚げて入り玉ふ事、二度目の殿清め

第三十六章　火曜日傳道の最後の日、殿中の爭ひ、イエスを捕へんと爲したるの初め、祭司の長イエスの權威よ付き尋問イエス譬を以て答へ玉へり

第三十七章　殿にての爭の續き其敵彼等の法を變へ議問を以てイエスを試むること

第三十八章　火曜日續きイエス其の敵對するものを靜め彼等を譴責爲し玉ふ傳道の終り

第三十九章　火曜日の夕イエス殿を去り其弟子よエルサレムの滅亡と世の終りを語る

註　水曜日ハイエスベタニヤよて休息しならん

第四十章　大審判の日に付ての教訓
第四十一章　木曜日夕逾越節の食事及び晩餐
第四十二章　木曜日夜基督其弟子に最終の遺訓を為す
第四十三章　弟子よ最終の遺訓續き
第四十四章　木曜日金曜日の夜ゲッセマヂの園の祈
第四十五章　金曜日朝五度の詮議即ちユダヤ人により二度ローマ人により三度
第四十六章　金曜日の續き、十字架よ掛らる其葬

第十篇　キリストの甦並よ昇天し榮光の主となる
第四十七章　甦し時五度あらわれたること
第四十八章　甦りて昇天迄四十日の間に五つ度あらわれたる事
第四十九章　昇天、支配者ある主
第五十章　三十四章より四十六章まで即ち勝閧を擧げてエルサレムよ

往きし時より昇天まで

附言　一ヶ年中よゝ日曜日五十二度あり故よ毎日曜日の爲め五十二章よ分たざる可らず然れども其中にゝ基督降誕祝日復活日傳道會禁酒會其他の會集あれバ其が爲め日曜日を二度省き以て此よ五十章に分てり

基督傳問題

十篇ヨ分つ

第一篇

基督の降誕並に三十年間普通の生活

註一、此の三十年間はキリストがガリラヤのナザレヨ住み其両親ヨ孝養を盡くし又善事を行ひ玉へり

註二、教師に一言、第一章を初むる前ヨ當り生徒ヨ是より學ばんとする各章ハ如何なる事ヨ付きてか其主意ハ何にかを述べ又イエスの生涯中の重なる事柄、奇跡などを語り又何の時代にイエスは世ヨ降りしや且つ其所を地圖にて指示し教ゆべし初の一章ハ生徒と共ヨ能く研究しまた其研究の方法などを能く教ふべし

註三、生徒ヨハ各々聖書を有たしむべし、キリストの一代記ハ四福音と云ふ新約全書初めの四卷ヨあることを告ぐべし、又如何にして此の四卷

を見出し得るやを敎しへ其卷の名を記憶爲し忘れざるやうゝ爲すべし

是れのみならず其卷ゝ皆章と節とゝ分れをることをも敎ふべし

註四、書中略語記號を用ひたるあり卽ち左ゝ示さん

○の上の數字ゝ章の印なり

○の下の數字ゝ節の印なり

|ゝ何章何節迄といふことを示す

例令バ十三〇二ー十六とあれバ十三章二節より十六節までといふと也

第一章　道肉體となれり

銘句(暗誦すべし)「太初に道あり道ゝ神と偕ゝあり道ゝ卽ち神なり」「夫れ道肉體となりて我曹の間ゝ寄れり」約一章一節十四節、

約一章一節より十八節迄朗讀すべし

第一、日課題

註四、此の日課題ゝ聖書ゝ基づけり此れゝ敎師が生徒に讀み聞かすかく氣を付け聖書など讀み聞かす事肝要あり

又ゝ生徒等ゝ讀ましむべし生徒等の父兄ゝして知るものゝ其子弟を能

日曜日　約一章一節より十八節迄

月曜日　路一章廿六節より卅八節迄

火曜日　路二章一節より廿節迄

水曜日　創一章一節より九節迄同十二節より廿節まで西一章十二節より二十節迄

木曜日　來一章一節より十二節迄

金曜日　約十二章四十四節より五十節迄同三章十六節より二十一節迄

土曜日　約十章廿二節より卅九節迄

第二、生徒への一言

暖なる春の日ゝ窓の外を眺むれバ美ゝしき花や綠の木々を見るならん、風いと寒き冬の日ゝゝ雪や氷の太陽の光に輝きて邊怕明きを見るゝらん然ど今

よりいと〳〵太古の初めより知らざる處なき能わざるところなき神の外よりも何もあらざりき神は其妙へなる力もて天と地と其中よりある萬物を作り玉ひ天は神の御使等の住む處とし地は我曹人類の住ふ處と定め玉へり、神は即ち後よりイエスキリストと成り玉ふ其御子より由りて此等の萬物を作り玉ふ、神は人をして此世にありて常に幸ひに喜びしく送者として作り玉ひしが罪と云ふもの人間に侵入してより世の人は汚れかつ哀む可き不幸の者となりたり、神の御子天より在まし此の罪より沈む哀れなる有樣を見て甚だ心を痛め人類を罪の汚れより救ひ出ださんとて美はしき天の寶座を棄て此世に降り玉ふ此の世界の玉殿金樓も爭で天津御國の輝に及びんや、然りながら其御子は

ユダヤのベツレヘムと云ふ村の廐より生れ玉へり是は當時其村より夥多の人の集ひ來て宿を求むる所もなかりしが故なり其生まれ玉ひし場所の如何は兎も角も其御位は一樣なし矢張神の眞の御子なり、天使等は其御子の世より生れ玉ひしを見て喜ぶも一方ならずベツレヘムの野より羊を牧ふ人々の中より

至り榮の主の生れし喜の音れを告げたりき羊牧等之を見て大いに恐れ慄きけり天使之に曰ける樣恐るゝ勿れ我れ萬民に關りたる大なる喜の音れを汝等に告ぐべし夫れ今日ダビデの邑にて汝曹の爲めに救主生れ玉へり是れ主たるキリストなり」と而して衆の天使共に神を讃美せり、遂に天使去り羊牧等はベツレヘムに急ぎ至り布にて包し嬰兒の槽に臥したるを見たりこれ神の御子の人の形となりて生れ玉し有樣なり、

第三、發端に付ての問題（口答、書を閉づべし）

一、各章にて學ばんとする樣誰の事に付てなる乎

二、其人は何處の國に生れしや

三、市の名は何と云ふや

四、地圖にて示すべし

五、其人の一代記は如何なる書物に記しあるや

六、各章の課は只其書物中の一のみより取り記したるもの乎或は凡て其人の

生涯に付記しある書物あらば何の書を論せず其中より取て此の各章より記せしものなるや

七、キリストの一代記を幾篇より分つや

八、第一篇の何よるか

九、第一章の題の何よるか

十、銘句を暗誦せよ

第四、日課問題　筆答

註五、生徒より一言問題の末に答案の記しあらざる時の聖書の引合せを見て答案を極く簡短に問題の下一行空たる處より記すべし、聖書の節を其儘書き取る可らず只其意味のみを取て答案をなすべし又他の生徒より答案を借りて寫しなど爲す可らず若し不審あらば教師より來りて尋ぬべし、木筆の常より豫意爲し置くべし

註六、教師の生徒より引合せの法答案の書き方問題廿にある引き照しの意味また問題廿一よある西一〇十六の意味などを解明すべし

一、最初にありし者の誰なりしや　約一〇一、

二、萬物の誰より由て造られしや　約一〇一—三、

三、彼の誰となりしや

答　イエスキリスト為り

四、キリストの誰の子なるや

答　神の子なり

五、何處より生れ玉ひしや　太二〇一、

六、其降誕を如何ある人より告げしや　路二〇八—十、

七、彼等に告げし者ハ誰なるや　路二〇九、

八、天使等ハ彼等ヨ如何なる事を語りしや（路二〇十—十二）十節と十一節を暗誦すべし）

九、天使等如何なる歌を唱ひしや（路二〇十四、暗誦すべし）

十、羊牧等ハ何處にてイエスを拜せしや　路二〇十六、

十一、彼等歸りて如何なる感じを起せしや　路二〇廿、

十二、造物者此世ヨ降りし時人々彼を知りしや　約一〇十、

十三、其國民彼を受けしや　約一〇十一、

十四、彼を受くるとハ如何なる意味乎

答　彼に從ひ彼を愛するを云ふなり

十五、彼を受くる者ヨハ如何なる力を玉ふや　約一〇十二、

十六、彼ハ誰を世の人々ヨ顯ハしたるや　約一〇十八、

十七、彼ハ自らを指して何と云ひしや　約十〇三十、

第五、議論問題　口答

註七、此ヨ記する問題ハ此の前にありし問題の如く簡易ならず然れども各々能く考へ其及ぶ丈けの答を爲すべし

十八、何故羊牧等ハ天使を見て恐れしや

十九、何故彼等ハキリストを見て喜びたるや

二十、神の子此世ヨ降る前ハ何處に在せしや（約一〇一、ト十七〇五を引照し見よ、筆答）

廿一、神の子彼處よりありて如何なる事を爲せしや（西一〇十六、年答）

廿二、何故に其美わしき處を離れて此世よ降りしや

廿三、彼れ此世よ降りし間も以前と同じく神の子なるや

廿四、神わ彼を指して何と云ひ玉ひしや（太三〇十七年答）

廿五、約八章十二節よ於て彼自らを何と呼びしや（年答）

廿六、如此人を我曹わ如何に見做べきや

廿七、イエスわ人よりいかよ見做れしや

第六、日課物語の筆記（隨意よ任す）

註八、教師も生徒も毎週學びたる日課の物語を記す事わ最も肝要なる事なり、初めに其草稿を書き夫れを漸々添刪し遂に白紙に清書すべし此の書冊よ記しある物語を其儘寫し取る可らず先づ四福音の引合せなどを能く撿らべ自ら作りて文を書くべし如斯毎週爲さば遂にわキリストの一代記を作り得べき也

教師へ一言、右述し如く生徒をして例ひ一課中數言のみ記せるも之を強めて爲さしむる時わ大に益あり又各生徒をして其記せし事を讀ましむ可し

第二章　基督の幼時並よ青年の時代

銘句、イエス智惠も齡も彌增り神と人とよ益愛せられたり　路二〇五十二、

路二章四十節より五十二節迄朗讀すべし

第一　復習問題　暗誦

註九、左よ記する問題わ各々よく注意して研究すべし即ち毎課上の事實且つ其關係を接續し心に能く覺え置く事又肝要なり

一、前の一章ハ誰の事を記せしや
二、其人ハ誰の子なるや
三、此の世ヨ降りし前ハ何處に在ませしや
四、彼處ヨありて如何なる事を爲し玉ひしや
五、此世に降りしハ何故なるや
六、何處ヨ生れしや
七、其母の名ハ何と云ふや
八、天使と羊牧の話を述べよ
九、此の事ハ何處ヨ記しあるや（其書冊の名と何章とを述べよ）
十、キリストの一代記を幾篇ヨ分つや
十一、第一篇の題ハ如何
十二、第一章の題ハ如何
十三、其銘句を暗誦すべし

十四、此の第二章の題ハ如何
十五、其銘句を暗誦せよ

第二　聖書練習問題　口答

一、聖書を大別して二部とす何々あるや
二、四福音の名を述べよ
三、此等の書ハ聖書中何づれの部ヨ屬するや
四、四福音ハ誰の事が記しあるや
五、約三〇十六、とハ何書の何章なる事を示すや
六、太二〇一、とハ如何
七、路二〇十四、とハ如何
八、可六〇一一三、とハ如何
九、西一〇十六、とハ如何
十、約一〇一と約十七〇五、を引照し見よとハ如何なる意味なるや

註十、教師ハ四福音の中の處々を出し生徒をして見當るよ熟練せしむべし又四福音のみならず他の書をも之と同じく學ばしむべし、聖書を用ゆるを學ぶの法ハ只之を日々用ふる事よあり而して第一よ學ぶべきハ引合の法なり

第三　日課　筆答

註十一、總て答へハ能く心にとめて極く簡短よ一二言を以て答ふべし又能く其如何なる物語なるかを記憶し以て答辯よ差支へなきやうよ爲しまた其記載しあるところを速かに見出し得るやうよ爲すべし

日曜日　路二章廿二節より卅二節を讀むべし

一、何故両親ハイエスをエルサレムに伴行きしや（二十二の終りと廿四の初め）

二、彼等殿よ入りし時誰よ逢ひしや　二十五節—二十七節

三、彼イエスを見て何んと謂しや　二十八節卅二節（廿八、より卅、まで暗誦）

月曜日　路二章卅二節より卅八節を讀むべし

四、其時他よ來りし者ハ誰なりしや　三十六節

五、其女ハ誰よイエスの事を語りしや　三十八節

六、其女ハイエスを誰と思ひしならんや（答辯すべし）

火曜日　太二章一節より十二節を讀むべし

七、此の時イエスを見んとてエルサレムより來りし者ハ誰乎

八、ヘロデ彼等を何處よ使ハせしや　八節

九、ヘロデハ誰なるや

答　ヘロデハパレスチンの王よりして甚だ悪しき人なり

十、如何よりして學者達ハイエスに見へしや　（答辯すべし）

水曜日　太二章十三節より十八節を讀むべし

十一、其時いかなる危難イエスに迫りしや

十二、如何よりして逃がれしや　（答辯）

十三、ベツレヘムより於ける幼き男子より如何なる事起りしや　十六、

十四、何故ヘロデハイエスを殺さんと謀りしや

答　其王位を奪われん事を恐れたればなり

木曜日　太二章十九節より廿三節を讀むべし

十五、イエスのエジプトに止まりしハ如何程なりしや　十九、初め

十六、何故イエスハ再び歸りしや

十七、其歸りし後何市より住み玉ひしや　二十三節

金曜日　路二章四十節より五十二節を讀む可し

十八、十二歳の時イエス何處に行き玉ひしや

十九、其處よりて如何なる事が起りしや　（口答）

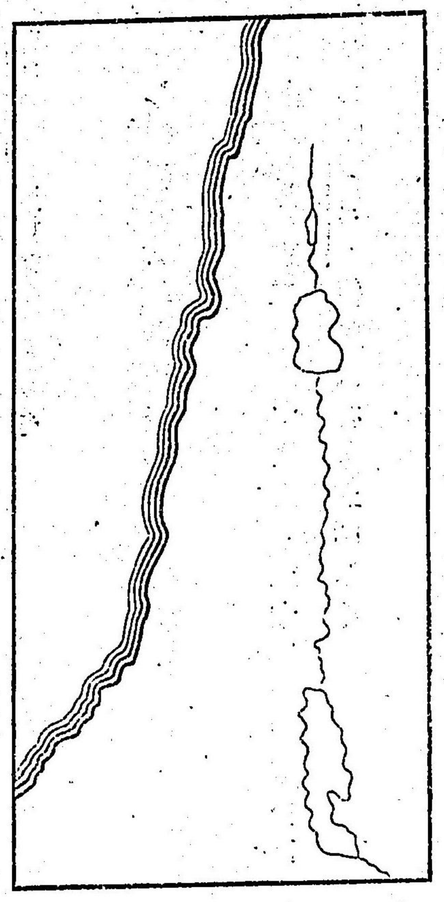
二十、此の章の四十、四十一、五十二節に由りてイエスハ如何なる小兒でありしと考ふるや

土曜日　希伯來二章十節より十八節を讀むべし

第四　議論問題

二十一、イエスが此れ迄よなし玉ひし四回の旅行を述べよ

二十二、此等の旅行を各々明細に何處より何處までまた其理由其距離等を記すべしまた地圖よて其場所を指示すべし



廿三、馬可傳六章三節よ記したるを見てイエスの家族其職業を如何よ考ふるや

廿四、イエスの世間普通の小兒達が有つ如き場合種々の難事の如何よ處し玉ひしや（來四〇十五、の終りを見よ）

廿五、イエスの我等の爲めにいかなる手本となり亦たいかなる厲ましとなり玉ふや

第五　日課の物語の筆記（第一〇の註の八を見よ）

教師の生徒に強めて此の章の物語を記せしむべし

此の章中にの二三の肝要なる話しを記し得るなり

第二篇

傳道の準備

註十二、此篇に於てのイエスの生涯の中三ヶ月程の事柄を記す即ちイエスの「バプテスマ」惡魔よ試みらるゝ事「バプテスマ」のヨハネよ由りて其名を公宣られし事、五人の弟子の撰並よ第一の奇跡を行し玉ふ事なり

第三章　洗禮

銘句、　此ハ我心に叶ふわが愛子なり（太三〇十七、可一〇一―十一、頌讃すべし）

第一　復習問題

一、前の章に於て何を學びしや

二、其銘句を暗誦せよ

三、両親が其子イエスを最初て携へ行きし處ハ何處なるや

四、彼處にて如何なる事ありしや

五、イエスを拜せん爲め遠方より來りしものは誰なるや

六、いかゝして彼等ハイエスの在ませしところゝ導かれしや

七、ヘロデハいかなることを企てしや

八、イエスハいかゝして逃れ玉ひしや

九、其後何處に住家を定め玉ひしや

十、十二歳の時イエス何處ゝ行き玉ひしや

十一、彼處にていかなることありしや

十二、イエスの幼時と青年との時代ゝ付き此の外知る處あるや

十三、イエスの一代記を幾篇ゝ分つや

十四、第一篇の題ハ何なるか

十五、第二篇ハ何なるか

十六、此の章の題ハ何なるか

十七、銘句を暗誦せよ

第二　聖書練習問題

註十三、　教師ハ生徒ゝ聖書の問題を多く出し生徒をして聖書の用法を熟練せしむべし

一、新約全書初めの四卷の名を述べよ

二、馬太傳二章ゝイエスにつきいかなることが記しあるや

三、天の使と羊牧との話の記しあるハ何書の何章ゝあるや

四、其同じ章中よいかなる話が記しあるや
五、ベツレヘム、ナザレ、エルサレムを地圖よて指すべし
六、エジプトへベツレヘムよりどの方角よ當るや
七、來四〇十五とへ何書のことを示すあるや
八、蹇四十〇三とへ如何
九、馬三〇一とへ如何
註十四、生徒をして聖書の引合せを見出し得るよ熟練せしむることへ最も肝要の事也

第三　日課物語

イエスの生れ玉ひし處より程遠からぬところを荒野と云ふ此處へ岩石嶮しく樹木生茂り只僅の人が山路の岩窟よ住むの外へ絶て人の住まざる所なりイエス三十歳になり玉ひし時一奇人顯れたり其名をヨハヂと云ふ彼へ其頭髮を少しも剪らず縺れ亂れて肩よ垂れたり彼れ駱駝の毛衣を着皮の帶を纏へり其食物へ野よ飛び居る蝗と岩穴に巣を作りたる蜂の蜜を以てせり蓋此等へ此の國の貧者の平生食する物なり、昔しより神へ此世よ主の來らんとする道線を豫備せん爲めよ一人を使へさんとを約束爲し玉へり、ヨハヂ自ら曰く我へ其使されし人なりと、約束されたる主へ暫よして顯われん、且つ天國近けりと述べ傳へり是よ於て人々へ彼に聞かん事を求め夥多集り來れり、ヨハヂ彼等よ其罪を悔改む可きを明かよ說示せり、人々の悔改めて正義を行はんと志す者よへ洗禮を施せり、一日イエスも亦洗禮を受けんとてガリラヤのナザレより出來れりヨハヂ初めにへ固く之を拒みたり、此へイエスへ既よ正しき者なれバ洗禮を施すに及バずとせり然れどもイエスへ其受く可き當然あることを告げ玉へり、是よ於てヨハヂヨルダン河よてイエスよ洗禮を施せり、イエス水より上れる時天彼の上よ開け而してイエスとヨハヂは聖靈鳩の如く天より降り彼が上に止まるを見たり此時天より神の聲ありて「こへ我が心に叶ふ我が愛子なり」と云へり此よ由てヨハヂへイエスの神の子なることを

確知せり

第四　日課　筆答

註十五、生徒へ、問題の答ハ凡て聖書の引合ヨ由り極く簡短に記し置を宜しとす

註十六、教師へ、此書冊に記する處ハ只イエスの一代記の概畧のみ故に細事は悉く省きたり若し生徒に他ヨ問題を出し委敷く尋ねるも宜し可成ハ餘り難問等を出す可らず

日曜日午后　路加一章五節より十七節を讀むべし

一、エルサレムの殿にてヨハネの父に顯れ子を與へんとを告げし者ハ誰なるや　路一〇十一―十三、十九、

二、天使ザカリヤヨ其子ハ如何なる人ヨなるべしと告げしや（十五節の初め）

月曜日　路加一章六十七節―八十節を讀むべし

三、ザカリヤ其子ハ世ヨ如何なることを爲さんと云ひしや　七十六節の終り

四、四百年以前より此の事に付き神ハ如何なる約束を爲せしや　馬拉基三〇一の初め

五、ヨハネ道を逃べ傳へる前ハ何所ヨ住まひしや　路一〇八十、

火曜日　路加三章一節より六節まで讀むべし

六、神の命を受けし時ヨハネハ何所に行きしや　路三〇二、三、

七、其處にて何を爲せしや　路三〇三の終り

八、殆んど七百年前に如何なることが預言されしや此の預言ハ成就せしや

（路一〇四―六、ヒイザヤ四十〇三―五、を引比べよ）

水曜日　馬太三章一節より六節迄讀むべし

九、ヨハネハ如何なる衣物を着又何を食ひしや（四節口答）

十、彼の許より集りしは夥多の人ありしや　五節

十一、ヨハネ彼等より如何なる事を語りしや　太三〇二、

十二、罪を悔改めし人々より如何なることを爲せしや　六節

木曜日　馬太三章七節より十二節まで讀むべし

十三、彼等に何を爲すべしと云ひしや　八節

十四、來らんとする人より付て如何なることを云しや（可一〇七―八、暗誦）

金曜日　馬太三章十三節より十七節迄讀むべし

十五、イエス洗禮を受けん爲め何處より來たり玉ひしや　十三節

十六、初よりヨハネハイエスに洗禮を施を諾せしや　十四節

十七、ヨハネ遂に洗禮を施せしハ何故乎　十五節

十八、イエス水より上れる時如何なること起りしや（十六、十七、口答、十七、暗誦すべし）

十九、此時イエス何を爲し居り玉ひしや　路三〇二十一、

二十、此の事のありし前よりヨハネハイエスの基督たることを知り居りしや　約一〇三十一、三十二、

二十一、キリストの來たりしを知る可き爲に神は如何なる兆を表ハせしや　約一〇三十三、三十四、

二十二、此の時イエスハ幾歳なりしや　路三〇二十三、

土曜日　約翰傳十四章十六節十七節、使徒行傳二章一節より四節迄、同十六節より十八節までを讀むべし

第五、議論問題　口答

二十三、ヨルダン河を地圖にて指せ此の河ハ何處より其源を發し何の方角ヨ流れ何海ヨ注ぐや

二十四、何故多くの人ヨハネに聞かんとして集りしや

答　彼等ハ皆イエスの來らんことを待ち望めり、故ヨヨハネハ其來たること付何ヨを云ふならんかと思ひ之をきかんが爲めヨ集り來たれる也

二十五、悔改めとは如何なることなる乎何を悔改むるや

二十六、如何にしてヨハネハキリストの道を備へしや

二十七、何故に天ハイエスの上に開らけ聖靈鳩の如く降りて其上ヨ止まり且つ神の聲ありしや

二十八、其聲何と云ひしや　銘句中にあり

二十九、何故神ハ其子を心ヨ適ひしとせしや

答　子ハ此の世ヨ降り且つ死し玉ひしが故也　腓二〇五―十一、

三十、何故神ハ此の故に由りて心に適ひし者とせしや

答　子ハ世を愛し且つ世を救ハんとせしが故也　約三〇十六十七、

第四章

銘句　サタンよ退け主たる爾の神を拜し惟之にのみ事ふべしと錄された
悪魔に試みらるゝ事

り　馬太四〇十、

馬太四章一節より十一節迄朗讀すべし

第一　日課

日曜日　午後　馬太四章一節より十四節迄馬可一章十二節より十三節迄
月曜日　路加四章一節より十三節まで
火曜日　伯來書二章十四節より十八節まで
水曜日　創世記三章一節より十三節まで
木曜日　創世記三章十四節より廿四節まで
金曜日　雅各書一章十二節より十八節まで
土曜日　以弗書六章十節より十八節まで

第二　復習問題　口答

註十七、問題を能く心に得知すべし之れ肝要のことよして事柄の續き關係を覺え置くべし

一、キリスト一代記の第二篇の題は何なるや
二、此第二篇ハ幾月程の間の事を記すや亦其中起りし重なる出來事を擧げよ
三、此の前の章の題ハ何なりしや
四、バプテスマのヨハネとハ誰なるや
五、彼は何を述べ傳へ亦如何なる言を云ひしや
六、ヨハネハ如何なる儀式を行ひしや
七、彼ハ人々の非常なる注意を引きしや
八、ナザレより洗禮を受んとて來りしものハ誰なるや
九、彼水より上り祈りせし時如何なる事が起りしや
十、是に由てヨハネハ如何なることを確めしや

十一、何故神ハ其子を心に叶ひしとせしや
十二、此の章の題ハ如何
十三、銘句を暗誦せよ

第三　聖書練習問題　口答

一、學者等の話並ヨエジプトに逃がれし話ハ何の書の幾章にあるや
二、路加二章ヨイエスヨ付て三ツの話あり何々あるや
三、馬太三章と路加三章ヨ如何なる話あるや
四、此と同じ話が他の二書ヨあり其書の名と其幾章ヨあるやを述べよ
五、ヨルダン河の源ハ如何またどの方角ヨ流れ何海ヨ注ぐや
六、賽四十〇三とハ何書の何章を示すや
七、馬三〇一とハ何書の何章を示すや

附言　教師、生徒をして詩九十一篇十二、十三節雅四章七節來二章十八節を見探し得らるゝようヨ爲すべし

第四　日課物語　聖書中よりの引語

馬太傳四章一節より十一節迄馬可傳一章十二、十三節路加傳四章一節より十三節迄

附言　此の日課物語ハ聖書にある語を引きたり三ツの書より取り合せて一ツの物語となす

偖てイエス聖靈に感されてヨルダンより歸り靈たゞちにイエスを野に行かしむ彼れ四十日野ヨ居りてサタンに試られ獸と共にをれり此諸日なヨをも食ず四十日畢りて後餓たり試むる者惡魔彼れヨ來りて曰ひけるハ爾若し神の子ならバ此石に命ズてパンと爲らせよイエス答へけるハ人ハパンのみヨて生る者ヨあらず唯神の口より出る凡ての言ヨ因と錄されたり是に於て惡魔彼を聖京に携へゆき殿の頂上に立せて曰けるは汝もし神の子ならバ己が身を下へ投よ蓋汝が爲めヨ神其使等に命せん彼等手ヨて支へ汝が足の石ヨ觸ざるやうすべしと錄されたりイエス彼に曰けるハ主たる汝の神を試むべ

からずと亦錄せり惡魔また彼を高山より携れゆき一瞬間より天下の萬國を示して曰けるゝ此の凡ての權威と榮華を汝より予へん我これを委任れば我が欲む者に之を予ふべし故に若しわが前に拜跪ば悉く汝の屬とあらんイエス答へけるゝサタンよ我後より退け獨主たる汝の神に拜跪これにのみ事ふべしと錄されたり終より惡魔かれを離れ天使たち來り事ふ

第五　筆答問題

附言　問題の側一行殘したる處に答案を記すべし其他ゝ答辯すべし

第一　イエス野より居る時

馬太四章一、二節馬可一章十二、十三節路加四章一、二節

一、イエスの野より行きしゝ何時なりしや　馬可一〇十二、

二、イエスゝそこにて如何なる伴をもちしや　馬可一〇十三、

三、イエスゝ如何程そこより居りしやまた何を爲せしや　馬太四〇二の初

四、終より如何なることが起りしや　馬太四〇二の終

第二　第一の試み

馬太四章三、四節、路加四章三、四節

五、イエスの許に來りしものは誰か　馬太四〇三の初

六、彼イエスより何を曰ひしや　馬太四〇三の終

七、如何なる理由を以てイエスゝ自ら神の子なりと考へ玉しや　馬太三〇十七

八、汝若し神の子ならゞ云々と語りしゝ如何なる意味を含みをるや

答　此の言葉の意い汝が神の子たることい恐らくい誤りならん故よ先き
に天より下りし神の聲が眞なるや否やを試むべしと云ひしとあり

九、何故にイエスが惡魔の曰し事を爲すことい惡きや

答　是れ神の言葉を疑ふなり

十、イエス彼よ何と答へ玉ひしや　馬太四〇四暗誦せよ

十一、其答へい如何ある意味なるや

答　我い神の言葉をうたがわず只我い其子よして神我を守り玉ふことを
信ずと云ふ意味あり

十二、如何に神いイエスを守り玉ひしや　馬太四〇十一

十三、此のイエスの試より我等如何あることを學ぶべきや

答　サタンい常よ我等の求めよ應じて試を爲す故よたとひ困難の折にも
神よ由て我等の信仰を失ふ可からざること也

第三　第二の試み

馬太四章五節より七節まで、路加四章九節より十二節まで

十四、第二の試みよサタンイエスを何處につれ行きしや　路加四〇九ト馬太四〇五

十五、殿の頂きとい何か

十六、サタンイエスよ何を爲よと求めしや　馬太四〇六初め

十七、サタンい如何なる神の約束を以てイエスを試みたるや

馬太四〇六の終りと詩篇九十一〇十二、十二を引比べよ暗誦せよ

十八、此約束の意味い若しイエスが殿の上より飛降るあれば神は天使をして
助けしむると云ふ意味か或い其全力を盡して自己の保護をなさば天使
來りてイエスを助けんと云ふにあるや

十九、イエスサタンに何と答へしや　馬太四〇七

二十、此の答の意味ハ如何

答　イエスハ如此き愚かことハなさぬ只神の正き助を望といふ意味なり

廿一、此の試より如何なることを學び得るや

答　聖書を僞りの意味以て試ることあり而して我等若し自をよく守るヨあらざれバ神の助を希ふ可らず

第四　第三の試み

馬太四章八節より十一節まで路加四章五節より八節までと十三節

廿二、第三の試ヨ於てサタンイエスを何處につれ行きしや　馬太四〇八初

廿三、サタンイエスヨ何を示せしや　馬太四〇八終

廿四、サタン何を云ひしや　馬太四〇九、

廿五、サタン此言葉を以てせバイエスを試ヨ落し得ると思ひしハ何故なるや

答　如何となれバイエスをして萬國を統御しめんとするハ尤も落入安き試みなりと思ひしが故なり

廿六、イエスハ何と答へしや　馬太四〇十、銘句

廿七、此の試より如何なることを學び得るや

答　我等は只神にのみ仕喩益あるとなりとも惡事を爲す可らずと云ヒ也

廿八、我等ハ如何ヨして試ヨ打勝ち能ふや　雅各四〇七

廿九、我等ハ如何ヨ祈る可きや　馬太六〇十三、

世、我等の試より助けんものゝ誰なるや彼如何よして助け得るや　希伯二〇十八

第六　日課物語の筆記第一章註八を見よ(隨意よ任す)

第五章　キリストとして世よ知られ玉ふこと

約翰傳一章十九節より同二章十一節まで

銘句、世の罪を任ふ神の羔を觀よ　約一〇廿九、

約翰傳一章廿九節より四十一節まで讀むべし

第一　日課

日曜日　詩篇四十五篇一節より八節同七十二篇一節より十一節まで

月曜日　褒五十二章十三節より同五十三章九節

火曜日　約翰傳一章十九節より廿八節迄

水曜日　約翰傳一章廿九節より卅四節迄

木曜日　約翰傳一章卅五節より四十二節迄

金曜日　約翰傳一章四十三節より五十一節迄

土曜日　約翰傳二章一節より十一節迄

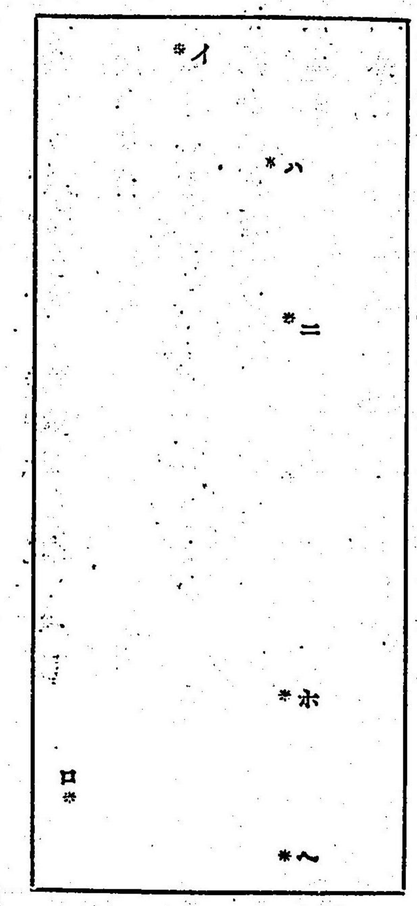
第二　復習問題　口答

日曜日午後の課

一、バプテスマのヨハネとは誰乎

二、イエス洗禮を受けし時は幾歳ありしや

三、第一、二、三、四章に於て學びたる地名を擧げよ



イロハ海邊の線の端なり故に此のイよりロまで一線を引くべし　ハヨルダン河の源なり　ニカリラヤ海の正中なり　ホヘ死海の上下邊なり

四、パレスチンの地圖を書き其地名を記すべし

五、四章の題ハ如何

六、イエスの試みを受けし處ハ何處なるや

七、第一の試みハ如何

八、第二ハ如何

九、第三ハ如何

十、第三の試に於てイエスハ如何なる答を爲せしや

十一、此の試の終りし後イエスを助けん爲來りしものハ誰なるや

十二、此の章ハ何ヨ付きて乎

十三、銘句を暗誦せよ

第三　聖書練習問題

月曜日の課

一、太傳四章の初めにイエスヨ付き如何なる話あるや

二、此と同じ話が路加傳の何章ヨあるや

三、馬可傳ヨも此と同じき話あるや若しあらば何章ヨあるや

四、此の話の記載しある福音書を開き各々幾節づゝあるやを述べよ

五、詩篇九十一篇十一、十二節を一同讀むべし

第四　日課の物語

此章中ヨ記する出來事ハイエス野に於て試を受けて歸りし後の事ありガリラヤのカナの奇跡を除くの外ハ四日の中引續きて起りしことなり此の四日の初の日にハ多の人々世ヨ來たらんとする者に付き如何なる話なすあらんかを聞かん爲めヨハネの許ヨ集まれりヨハネ彼等ヨ曰けるやう其來るべき人ハ汝等の中ヨありと雖も未ず知ること能ハざるありと明る日ヨハネイエスを指して世の罪を任ふ神の羔を見よと云へり

其の明る日即三日目ヨヨハネ其の二人の弟子にイエスの歩ゆみ玉へるを示せり其弟子イエスのもとヨ行き彼を信じ從へり此の中の一人ハシモンペテ

ロの兄弟アンデレーにして他の一人ハ傳教者のヨハチなり、アンデレーキリストを見て喜びの餘り其兄弟シモンをイエスのもとヨ携來れり是ヨ於てイエス三人の弟子を得玉へり第四日目の終りヨイエスまた二人の弟子を得即ちイエスの我ヨ從へと曰ひて來りしベツサイダのピリポとピリポが携來りしナタナヘルとの二人なり此の五人の弟子と供ヨガリラヤのカナに行き其處ヨて其榮を表ハせり即ち水を葡萄酒ヨ變せし事にして是に由て其弟子等彼を信せり

第五　筆答問題

附言　問題の側ヨ一行殘しある處に各々答案を簡短ヨ記すべし

火曜日　約翰傳一章十九節より廿八節までを讀むべし

一、ヨハチの人となりを尋問ん爲ヨエルサレムより來りし祭司とレビを使ハせし人ハ誰あるや　約一〇十九、

二、彼等の中或人ハヨハチをキリストならんと思へりヨハチハ之に何と答へしや　二十節

三、ヨハチハ自を指して誰と曰しや　二十三節暗誦

四、此の意味ハ如何

答　彼ハ人々が皆主を受くるヨ豫備を爲さんため主の來る前ヨ使されしものなり

五、彼等が知らざる所のもの一人彼等の中ヨ立てりと云ひしハ誰を指せるや　二十六、二十七節

六、此事ハ何處にてありしや　廿八節

附言　此の處を地圖にて示せ且つ汝等が作りし地圖に於ても示すべし

水曜日　約翰傳一章廿九節より卅四節を讀むべし

七、次の日ヨハネハイエスに付如何ある言を云ひしや　二十九節銘句

八、初めヨハネハイエスの誰なることを知りしや　三十一節終り

九、ヨハネハイエスを知りし時天より降りしものハ何か　三十二、三十三節

十、何時此の事起りしや　太三〇十六節

十一、ヨハネハイエスを指して誰と云ひしや　三十四節

十二、如何よして此事を知りしや　太三〇十七、

十三、此の日イエスハ從ひしものありしや

木曜日　約翰傳一章三十五節より四十二節を讀むべし

十四、次の日ヨハネハ誰よイエスの事を告げしや　三十五節

十五、此の二人ハ如何よせしや　三十七節

十六、彼等ハ誰よ逢ひたりと思ひしや　四十一節終り

十七、其人々ハ誰なるや

答　一人ハシモンペテロの兄弟アンデレー(四十節)他ハヨハネ傳を書きしヨハネなり

十八、アンデレー誰を初めにイエスのもとよつれ來りしや　四十一節

十九、イエスシモンに逢ひし時何と呼び玉ひしや　四十二節

金曜日　約翰傳一章四十三節より五十一節を讀むべし

廿、次の日イエスは誰に逢ひ何と曰ひ玉ひしや　四十三節

廿一、ピリポは誰をイエスに伴れ來りしや　四十五、四十六節

廿二、此の時イエスは幾人の弟子を得しや

土曜日　約翰傳二章一節より十一節を讀むべし

廿三、次にイエスは何處にありしや　一節

廿四、イエス何に招かれしや　二節

廿五、イエス其處にて如何なる奇跡を爲せしや　三節より十節まで

答　水を葡萄酒に變へたり

廿六、此の奇跡は其の弟子等に如何なる結果を及ぼせしや　十一節終り

第六　議論問題

廿七、世の罪を任ふ神の羔と呼しは如何なる意味を含みをるや

答　十字架の死に就て我等の罪を赦るされ得るなり

廿八、基督に頼るの外に我等の罪は赦され得るや

答　此はか別に救ある事なし蓋天下の人の中に我等の依頼て救はるべき他の名を賜ざれば也　使四〇十二暗誦すべし

廿九、キリストに頼り罪の赦しを受けんには何を爲すべきや

答　我等其の罪を悔い罪より逃れ出で神を愛し之に從ふ可きあり

第七　日課物語の筆記第一章の註の八を見よ

第三篇

傳道の初まりユダヤにて道を傳へたるの期多人の注意を引き且つ數人の弟子をつくり玉ふ

註十八、此のユダヤ最初の傳道の期ハ殆ど八ヶ月なり

第六章　イエス働きを初むること

約翰傳二章十二節より同三章二十一節迄

此章よりて逾越節の時エルサレムの殿にて鴿を賣るもの商をするものを追ひ出せしことより由てイエスの初てメシヤとして世に現れ玉ふこと並にユダヤの宰ニコデモとの問答あり

銘句、人もし新に生れずば神の國を見ること能ハじ　約三〇三、

約三章一節より十五節までを朗讀すべし

第一　復習問題　口答

一、キリストの一代記を幾篇に分つや

二、第一篇中の二章の題ハ何なりしや

三、第二篇中の三章の題ハ何なりしや

四、今初んとする新しき篇題ハ何なるや

五、ヨハネイエスを救主として示せし時何と云ひたるや　五章の銘句

六、其日ハイエスに從しものあるや

七、次の日ヨハネイエスを見たりし時何と云しや

八、其時イエスに從ひ弟子となりしものハ誰なるや

九、其日他に得たりしハ誰なるや

十、次の日亦得玉ひし二人の弟子ハ誰なるや

十一、イエスの爲し玉へる第一の奇跡ハ何か

十二、何故イエスハ其奇跡を爲し玉ひしや

十三、此の章の題ハ如何

十四、銘句を暗誦すべし

第二　聖書練習問題

一、約翰傳一章廿九節卅六節ヨリ於テヨハネ子イエスを何人と呼びしや

二、イエスの初の弟子ヨリ付きてハ何の書の何章ヨリて見出し得るか

三、第一の奇跡の話ハ何の書の何章ヨリあるや

四、賽五十二章十三より五十三章九節迄を見よ

五、詩篇四十五篇一ー八まで七十二篇一ー十一を見よ

六、初より此章迄に如何ある地名をパレスチン圖中に見出すや地圖ヨリて指すべし

第三　日課　筆答

問題の側ヨリ一行殘したる處ヨリ答を記すべし其他ハ口答ヨリすべし

一日曜日午後　約翰傳二章十二節より十七節迄讀むべし

一、イエスカナを去り何處ヨリ行きしや（十二節初）其處を地圖ヨリて指せ

二、如何程そこに止まりしや　十二節終り

三、其次ハ何處ヨリ行きしや　十三、十四節

四、イエス十二歳の時に逾越節ヨリて如何なることありしを記憶するか　路二〇四十一ー五十節を見よ

五、イエスのメシヤとして行ひ玉ひしことハ何あるや　十四ー十六節

六、何故イエス此の事をなし玉ひしや

答　殿ハ清き所ヨリして諸物を賣買することハ惡しきが故なり

七、我等神の家を如何ゝ見做すべきか
答　神を神聖とせんが爲最も崇敬を加へざる可らず

月曜日　約翰傳二章十八節より廿五節を讀むべし

八、イエス殿にて商ひをするものを追ひ出せし後ユダヤ人ゝイエスゝ何と云ひしや

九、其記號とゝ如何なる意味か
答　奇跡の事なり

十、何故彼等ゝ如此謂しや
答　イエスゝ預言者なるが故に此事を爲したりと思へり故に彼等其証據を爲すため奇跡を望みたり

十一、イエスは何んと答へしや　十九節

十二、イエスゝ如何なる殿を指して云へるや　廿一節

十三、イエスの曰ひ玉ひし意味ゝ如何なることか
答　汝等我を死ゝ至らしめん然れど三日にて甦るべしと曰ふ意味なり

十四、イエス十字架に付けられし後三日目ゝ甦りしや
哥前十五〇三、四、甦に付路二十四〇一—九を見よ

火曜日　哥林多前書十五章十二節より十八節を讀むべし

附言　イエスの死より甦りしことゝ即ち神の子且つ世の救主たることの一つの確なる証據あり

水曜日　約翰傳三章一節より八節を讀むべし

十五、夜イエスの元に來りしものゝ誰なるや　一、二節

十六、何故畫來らざりしや

答　人々の嚼せんことを恐れし故なり

十七、イエスニコデモに何と云しや　（銘句一同暗誦せよ又五節を見よ）

十八、「新よ生る」「再び生る」とは如何なる意味か

答　神を愛せず神に仕へぬ人の心をして神を愛し神に仕へるようならしむるを云ふなり

十九、心を變へ或は新よ生れることを何と云ふや

答　基督信者になると云ふ

木曜日　約翰傳三章九節より十五節を讀むべし

廿、ニコデモは此事を悟りしや　九節

廿一、イエスの曰玉しとは誠あるを如何よして知しめ玉ひしや　十一節

廿二、人々を救ん爲めにキリストは如何なることを曰玉しや　十四、十五節

廿三、上らる可しとは如何なる意味か

答　十字架よつけらるといふ事なり

金曜日　約翰傳三章十六節より廿一節を讀むべし

廿四、此十六節は聖書中の最も美しき節と呼べる　（暗誦）

廿五、何故神は其子を世よ使はせしや　十七節

廿六、キリストを信ずるとは如何なることか

答　キリストを我曹の救主とすること即ち新に生れん爲に凡てを擲すてとなり

廿七、キリストを信じて我曹救れ得るや　十八、十九節

土曜日　詩篇五十一篇一節より十節を讀むべし

廿八、我曹の罪を赦され新よ生れん爲めに如何なる祈を爲すべきか

第四　日課物語の筆記　第一章の註の八を見よ

第七章　第一ユダヤ傳道の終り　一、二、十節暗誦せよ

約翰傳三章廿二節より同四章四十五節迄

銘句、神ハ靈なれバ拜する者もまた靈と眞をもて之を拜すべきなり　約四〇廿四、十九－三十六

第一　復習問題　口答

一、第六章にて如何なることを學びしや

二、何故イエスハ殿よて商賣する者を追出せしや

三、夜イエスの許よ來りしハ誰か

四、イエス彼に何と云ひしや　六章銘句一同に暗誦せよ

五、此の言ハ如何なる意味か

六、聖書中最も美ハしき節と呼バれたるハ何節なるや

七、今學ぶハイエス一代記の幾篇なるや

八、此期ハ何程の間なるや　十八の註を見よ

九、此章は何よ付て語るや

十、銘句を暗誦せよ

第二　聖書練習問題

一、約翰傳二章よ如何なる二ツの話あるや

二、イエスのニコデモと問答爲し玉へる話ハ何書の何章よあるや

三、哥前十五〇三、四、路廿四〇一－九詩四十五〇一－八、七十二〇一－十一裟五十二〇十三より五十三〇九を見出すべし

四、第五章よある地圖よカペナオムとスカルの二ツを記せよ又イエスがカナよりカペナオムにカペナオムよりエルサレムよエルサレムよりスカルよ

行き玉し道路を示せ

第三　日課物語

イエスニコデモと問答を爲し玉へる後直ちにエルサレムを出で數月の間ユダヤに止まり多くの人々イエスの許に來りイエス彼等に洗禮を施せりヘロデヨハネを獄舍に入る時イエス其處を去りてガリラヤに行けり其旅行中イエスはサマリヤのスカルを過ぎヤコブの井にて休みたりイエス疲れ且つ渴きてそこにおりし時サマリヤの女水を汲まん爲めに來れりイエス其女に水を飲ませんことを求めたり其女是を見て大に驚けりそはユダヤ人とサマリヤ人は昔より互に敵視し何事に於ても互に相助けることなおざりければなりイエスは其女に活る水即ち願ふ處のものには必ず與へ玉ふ眞の美しきキリスト信者の生涯と神を眞に拜することと亦己れはメシヤなることを語れり女大に其言葉に感じ其市にある多くの人々を呼びイエスの許に連れ來れり爰に於てイエス市に入り多くの人イエスを世の救主として信せり　イエス

二日其處に止まり後ガリラヤに行けり

第四日課　筆答問題

問題の側に一行殘したる處に答を記すべし他は口答なり

日曜日午後　約翰傳三章二十二節より三十節を讀むべし

一、イエスと其弟子等はエルサレムより何處に行きしや　廿二節

二、多くの人イエスの許に集まりしや　二十六節終

三、此事を聞し時バプテスマのヨハネは如何なる事を云ひしや　三十節

四、三十節の意味如何

答　イエスは益々多くの弟子を得玉ふされどヨハネは漸々少なくなると云ふ意味なり

月曜日　約翰傳三章三十一節より三十六節を讀むべし

五、何故ヨハネよ從ふよりイエスよ從ふわよきや

答　イエスわ天より降りしものよりして萬物の上に位し玉ふなり　三十一節

六、神がイエスよ爲し玉へる事よ付きヨハネわ如何なることを謂しや　廿五節終

七、キリストを信ずるものわ如何におるや　三十六節初

八、彼に信玄從ざる者わ如何になるや　三十六節終暗誦せよ

火曜日　約翰傳四章一節より六節を讀むべし

九、イエスユダヤより何處よ行きしや　三節

十、何の國を經て行きしや(四節)地圖よて示すべし

十一、何市に來りしや(五節)地圖よて示すべし

十二、誰の井ありしや　六節初

十三、何故イエスわ井の傍に座り玉ひしや　六節

水曜日　約翰傳四章七節より十五節を讀むべし

十四、誰が何故井に來りしや　七節初

十五、イエス其女よ如何なることを語りしや　七節終

十六、何故女わ其言葉よ驚きしや　九節終

十七、イエスの誰なることを知り且つ彼に願ふ者よりは何を與へんと曰ひ玉ひしや　十節終

十八、活る水とは如何なる意味か

答　罪の贖なり

十九、女は之を悟りしや　十一節

廿、イエスの與へ玉ふ水は如何なる水なるかを示し玉ひしや　十四節暗誦

廿一、此意味を述べよ

答　神は常よりキリストを信ずるものを聖より導き玉ふなり

木曜日　約翰傳四章十六節より廿六節を讀むべし

廿二、女はイエスを誰と思ひしや　十九節

廿三、何故女はイエスに其拜すべき處を尋問しや

答　ユダヤ人とサマリヤ人は其拜所を異にせし故なり

廿四、神を拜する眞の道は付きいかなる眞理を表し玉へるや　廿四節

廿五、イエスは誰なりと云しや　二十五二十六節

金曜日　約翰傳四章二十七節より卅八節を讀むべし

廿六、女は何處に行きしや　二十八節

廿七、其市の人に如何なる事を云しや　二十九節

廿八、市の人々の來りしときイエス弟子は何と云しや　三十五節暗誦

廿九、此意味ハ如何

答　折あらば多く人々イエスよ從ふを云ふ

土曜日　約翰傳四章三十九節より四十五節を讀むべし

卅、イエススカルの市よ幾日止まりしや　四十節

卅一、イエス其處にて弟子を得玉ひしや　三十九、四十一節

卅二、イエスを信ずるに付き彼等ハ如何なる理由を擧げしや　四十二節

卅三、其後イエス何處よ行きしや

第五　議論問題

卅四、默示錄二十一〇六の終よある活る水とハ何か

卅五、誰が共よ預り玉ふや　默示二十二〇十七節暗誦せよ

卅六、神を拜するよ靈と眞實を以てするとハ如何なる事か

第六　日課物語　第一章註八を見よ

第四篇

ガリラヤ傳道の初人望を得玉ふこと

註十九、ガリラヤ傳道の此初ハイエスユダヤより歸りし後直ち初まる即ち次の逾越の節よ至るまでの間殆ど四ヶ月間の事柄なり此間の著しきことは（一）イエス會堂にて敎へを爲すの初まり（二）四人の弟子を撰び玉ふこと即ち彼等よ一切を棄て傳道を爲すことを命じ玉ひしこと（三）イエス其弟子とガリラヤ第一巡廻傳敎のこと此三なり此期の間よはイエスナザレの人より追出され後カペナオムに於て己が住家を定め玉へり亦多の奇跡を行ひたりナザレよて受けし外ハ殆ど反對を試みるものなか

りしなり此故にイエスハ大なる喜びを持ち且つ人々増々イエスヨ心を屬せりイエスの傳道中此の四ケ月ハ最もイエスヨ取て樂しき時なりし如くヨ見ゆる也

第八章　イエス會堂にて教を初たり

馬太傳四章十二節より十七節迄馬可傳一章十四節より十五節まで路加傳四章十四節より卅一節まで約翰傳四章四十六節より五十四節迄

銘句、天國ハ近けり悔改めよ　太四〇十七路四〇十四―三十一、

復習問題　日答

日曜日　約翰第一書一章一節より十節を讀むべし

附言　此書中ヨ記する出來事はイエスの働上の大變革の初めなり是を研究する前ヨ當り是迄ヨ學び來りし事を能く記憶し置ざるべからず故ヨ此に多くの復習問題を出せり此問題を能く研究すれバ既ヨ學びたる事ハ能く記憶し得る也

一、イエスの一代記の第一篇ハ何か
二、イエスハ生れざる前にハ誰なるや
三、イエス生れ玉ひしとき天使等何をなせしや
四、イエスは三十年間何處ヨて送り玉ひしや
五、イエス一代記の第二篇ハ何か
六、イエス「バプテスマ」を受け玉ひしとき神ハいかなることを云ひ玉ひしや
七、三つの試を順序ヨ述べよ
八、ヨハネイエスをメシヤとして示せし時ヨ如何なることを謂ひしや
九、イエス一代記の第三篇ハ何か
十、イエズエルサレムの殿にて初めてなし玉ひしことハ何か
十一、イエスニコデモに語りし初のことハ何か
十二、ニコデモと語りし後イエス何處ヨ行きしや
十三、其弟子等其處にて何をなせしや

十四、何故イエスユダヤを去りしや

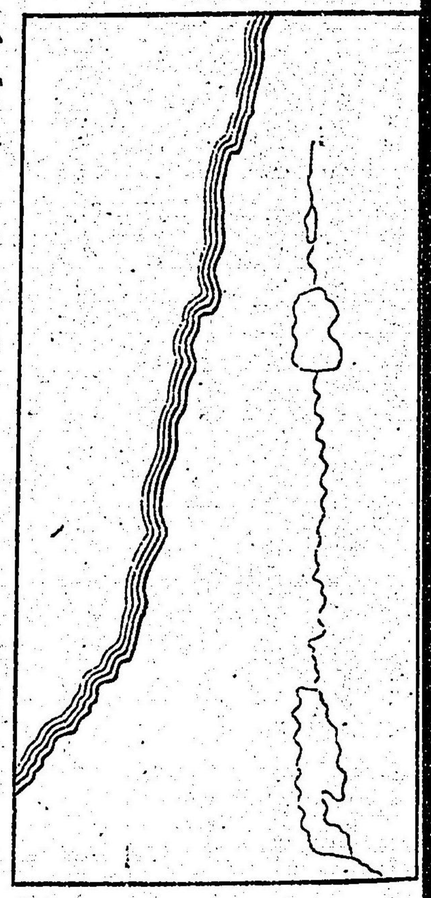
十五、ガリラヤよ行く道よて何處よ止まりしや

十六、誰と語りしや

十七、イエス其女よ自を誰なりと告げしや

十八、其處よてイエスを信せしものあるや

十九、地圖にてナザレイエスの「バプテスマ」を受けし所なるベタニヤ荒野、カナエルサレムスカルを示せ又其行み玉へる道すじを記せ而して其所々よ起りし事柄を語れ



廿、此章い如何なることよ付てなるか

廿一、銘句を暗誦せよ

第二　聖書練習問題

月曜日　羅馬書五章一節より十一節迄

一、サマリヤの女と語り玉ひし話い何づれに記あるや

二、約四〇廿四を見よ

三、約四〇十四默二十一〇六、二十二〇十七を開くべし、一同讀むべし
四、此三節ハ如何あることを示すや
五、聖書中の最も美ハしき節を暗誦せよ亦何處よあるやを述べよ
六、第七章の銘句を暗誦せよ
七、イエスハ誰よ此事を語りしや

第三　日課物語

イエスヨハネより「バプテスマ」を受けて後ナザレの家を出で殆んど一年を過し玉へり此間よは樣々の事イエスの身に起れり亦イエスも多くの業を爲し玉へり然どイエス未だ多くの弟子を得ざりき偖てイエスガリラヤよ歸り暫らく其處よて大よ成効を得玉へりイエスの名ハ普く廣まり人々多く其聞し教を驚き語りあへりカナよて第一の奇跡を行ひし後次よハ貴人の子息を醫し玉へりイエスハ只言葉を以て遠くカペナオムにある病める子息を醫し玉へる也是れイエスの遠く離れたる所にて爲し玉へる奇跡中の一なり之れ迄ハイエスユダヤの會堂よて敎へ玉ハざりしがガリラヤよ歸りて後直よ初め玉へり之れ爲し玉へる其働きの一大變革あり其中にはナザレの會堂もあり き初め人々ハ其語り玉へることを喜び聞り然れども後よイエスよ向つて大に反對を爲せりイエス其後ゲヂサレの美ハしき湖の傍りあるカペナオムよ住家を定め玉へり

筆答問題

問題の側一行殘したる處は答を記すべし其他ハ口答よすべし

火曜日　約翰傳四章四十六節より四十九節迄讀むべし

一、イエス初よガリラヤの何市に至りしや　四十六節
二、其處にてイエス以前よ如何なる奇跡をなし玉ひしや　四十六節
三、其處にありしときイエスを見んとて來りしものハ誰あるや　四十六節

四、何をイエスよ求めしや　四十七節

五、イエス初め如何よ答へしや　四十八節

六、此答よ由り其父ゝ望を失ひしや或ゝ前より猶熱心よ求めしや　四十九節

水曜日　約翰傳四章五十節より五十四節を讀むべし

七、イエスゝ大臣よ何と謂ひ玉ひしや　五十節初

八、大臣イエスを信せしことをいかにして表せしや　五十節終

九、彼家よ歸らんとする途中よ如何なるよき報知を得しや　五十一節

十、何時子息ゝ愈初めしや　五十二、五十三節

十一、此の如く速かよ愈しゝ何よ由や

十二、此事よ由り大臣と其家族よ如何ある結果ありしや　五十三節終

十三、イエス其人を見ずして病を愈し玉へるものを擧げよ　路七〇一—十と可七〇廿五—卅を引比べよ

木曜日　イザヤ六十一章一節より三節路加傳四章十四節より　二十一節

十四、イエスガリラヤの會堂よて何をなし玉ひしや　路四〇十五

十五、イエスの行きし市の一を擧げよ　十六節

十六、安息日はイエス何處に行きしや　十六節

附言　ユダヤの會堂は我等の教會の事なり其處にて舊約書を讀み其を人々に解明すは習例となれり

十七、イエスは讀ません爲め如何なる書を與へしや　十七節

十八、メシヤは付きて何を讀しや　十八節暗誦

十九、イエス彼等は何と云ひしや　二十一節

廿、其意味は如何

答　總て此處に記したる事を行さんもの今彼等は語りつゝありと云ふ事なり

金曜日　路加傳四章廿二節より卅一節を讀むべし

廿一、イエス自の誰なるを語りたるとき彼等何んと思ひしや　二十二節終

廿二、彼を信せざるはヨセフの子なるが故を以てなるか

廿三、イエスを信ずる前に如何なることを爲す可しと云ひ玉へる乎　二十三節

廿四、廿二節より廿七節迄の意味は如何

答　イエス外の處にて多くの奇跡を爲し玉へるが其處にては人々信せざるが故は奇跡をなし玉はず而してイエス舊約書を引きて神はユダヤ人はあらずとも信ずるものは何處は於ても奇跡を爲し玉ふことを述べ玉へり

廿五、イエスの此言葉を聞き彼等如何なる感じを持しや　二十八節

廿六、彼等イエスに何を爲さんと謀りしやイエスハ何處ヨ行きしや　廿九―三十一節

土曜日　イザヤ九章一節二節馬太傳四章十二節より十七節まで

馬可傳一章十四節十五節

廿七、イエスカペナオムヨ何程止まり玉ひしや

答　イエスカペナオムに一年餘り住み玉へり其間所々に行き玉ひしが復たカペナオムヨ歸り玉へり

廿八、イエスガリラヤにて如何なることを初め玉ひしや　太四〇十七

第五　日課物語の筆記(隨意ヨ任す)第一章註の八を見よ

第四篇續き

ガリラヤ傳道增々人望を得玉ふ時

註二十、初めより此ヨ至るまでイエスの一代記の初めの三篇を學びたり卽ち第一キリストの降誕並ヨ三十年間普通の生活、第二傳道の準備、第三ユダヤ傳道の初めなり

第四篇中ヨ既に第八章あり又た第九章第十章をも續くべし

第九章　イエス四人の弟子に凡てを棄て從ふことを命じ玉ふこと並ヨ多の奇跡を行ひ玉ふこと

馬可傳一章十六節より廿九節まで馬太傳四章十八節より廿二節迄同八章十四節より十七節迄路加傳五章一節より十一節まで同四章廿一節より四十四節まで

銘句、我ヨ從へ我なんぢらを人を漁る者と爲ん彼等やがて網を棄てイエスに從ふ　太四〇十九二十、

路加傳五章一節より十一節を朗讀すべし

第一　復習問題

一、イエスの一代記の幾篇を今學びつゝあるや
二、此時イエスハ何處に住ひしや
三、此前の章の題ハ何ありしや
四、銘句ハ如何
五、カナよりてイエス如何なる奇跡を爲せしや
六、ナザレにてイエス如何なる待遇を受けしや
七、此章ハ何よ付てなるや
八、銘句を暗誦せよ

第二　聖書練習問題

一、約四章にてイエスに付き二の話あり何々なるや
二、ニコデモの話ハ何處よあるや
三、羊飼と天使の話と基督の殿よ於ての話ハ何處にあるや
四、博士達とエジプトよ逃れたる話ハ何處よ記しあるや

五、イエスのナザレより追出されし話ハ何處よあるや
六、羅五〇一ー十一約第一書一〇一ー十賽五十三〇四約三〇十六詩九十一〇十一ー十二を見よ

第三　日課物語

イエスと共よユダヤサマリヤを廻りし弟子達ハ明かに誰なりしやまた幾人なりしや知る能ハず、恐くハヨルダン河の邊よて撰玉ひし初めの五人ならん、イエスのガリラヤに歸りし後弟子等は再び其各々の家よ歸りたる如くよ見ゆ、如何となれバイエスハカナナザレ且カペナオムよ於て此時まで只一人なりし事を知る也然ども、イエス是より後ハ以前より、一層の働きをおさんとせり、故よイエス其弟子達の早く歸らんことを待ち玉へり、此ハ其弟子達彼の働を助けん爲め又たイエス此世を去りて後よも弟子達なほ其働きを續けん爲めよ其眞理よ付彼等に語らんと望み玉ひしが故なり、此故にイエス其最もする弟子の四人即ちペテロアンデレーヤコブヨハネをして各其船と網とを

棄て、己に從ハしめ玉ふ、彼等に命じ玉ふ前に奇跡即多くの魚を取らしめて彼等を驚かせり、此の後より彼等ハイエスの命ズ玉ふことを以前よりも一層よく從へり時に彼等ハ心に喜を與へられたり彼等ハイエスの世を去り玉ふまで喜び從ひたり、總てのものを棄てイエスに從ハしめ玉ひし四人ハ是れ基督教會の初まりなり、此後安息日に多の奇跡を行ひ玉へり、此日を奇跡の安息日といふ、第一會堂にて鬼につかれたるものを醫し第二にハペテロの家に至り其岳母の熱を病みたる時イエス其手を押りて醫し玉へり、此奇跡の聞へ市中に播まりぬ、日の入りしとき安息日の終りてより、人々病める者を多く携へ來たりて、イエスの許に置くイエス悉く醫し玉へり明る朝夜明前にイエス祈りせんとて靜かなる處に行けり多くの人々彼を尋ね來り、再び市に歸らんことを願ひしも我ハ他の市に於てまた教を爲すべしと謂て受け玉ハざりき、而してイエス其四人の弟子を伴ひ至るところに神の道を述べ、且つ惡鬼を追出しガリラヤを歷めぐれり、

第四　日課筆答問題

註廿一、問題の側一行殘したるハ皆筆答ふすべし、其他ハ皆答辯すべし、毎日少しづゝにても書き置くべし、答案ハ可成短かく聖書より作るべし、凡て其話ハよく記憶し各々教師より尋ねられし時に直に之に答へ得るやうまた引照なくしても答へ得るやうにすべし、又教師も必要と認る所の事ハ生徒に問ふべし、

日曜日午后　路加傳五章一節より十一節を讀むべし

月曜日　馬可傳一章十六節より廿節馬太傳四章十八節より廿二節

附言　路加傳にハ此話の初を書き馬可傳と馬太傳にハ終を記す故に日曜日と月曜日の部を共に讀むべし

一、何故にゲチサレの湖の邊に人々イエスの周圍に集りしや　路五〇一、

二、イエス何處より座して彼等より教しや　二三節

三、教終へし時シモンより如何なることを命せしや　四節

四、シモンの魚を取らんことを望みて網を打ちしや或の只イエスが命じ玉ひしより由りて其言葉より從ひしものなるや

五、イエスの命じ玉ひし如く爲せしとき如何なることがありしや(委敷語るべし)　六、七節

六、シモンペテロ之を見て何を爲せしや　八節

七、イエスシモンより如何なることを告げしや　路五〇十終に記せり

八、シモンとアンデレーより何と曰ひ玉ひしや　可一〇十七節に記せり

九、此二つながら同玄意味を含む其意味の如何

答　此人々のイエスの事を多くの者より告げ其人々をしてまたイエスの弟子たらしむるなり

十、イエス彼等より語りしとき彼等の何を爲せしや　可一〇十八、

十一、彼等の外此のとき誰を呼び玉ひしや　十九、廿節

十二、彼等の何を爲せしや　廿節

十三、此の四人の内前にバプテスマのヨハネイエスを指示せしとき彼を信せし者二人ありき其名を擧げよ　約一〇四十―四十二節

附言　此ときアンデレーと共にありし者にて其名の記さゝるものゝ多分ヤコブの兄弟即ち傳敎者なるヨハヂならん　約一〇四十、

十四、此ときイエスの弟子等を呼び玉ひしことゝ、彼のとき彼等が信せしときとゝ如何なる異ひあるや

答　彼等初めよりイエスを見しときメシヤとして彼を信せり此時にゝ凡て彼等の業を棄てイエスの行き玉ふ處に從ひ亦其働きを共に助けたり

十五、彼等再び船に歸へり漁を爲せしゝ何時なりしや　約二十一〇一―三節

十六、其時如何あるとありしや（約廿一〇四―十四）此話を讀み委敷語るべし

火曜日　馬可傳一章廿一節より廿八節迄

水曜日　路加傳四章三十一節より卅七節迄

此二福音とも同玄話しあり

十七、四人の弟子を呼び玉ひし後、安息日よりイエス何處より行き玉ひしや亦其處より何を爲せしや　可一〇廿一、

十八、人々イエスの言葉によりて如何より感せしやとゝ何故なるや　二十二節

十九、何故イエスゝ權威を以て敎へしや　約三〇卅一―卅四特に卅四節

二十、其安息日より敎會にて如何なる驚くべき事起しや委敷語るべし　可一〇廿三―廿六、

廿一、夫れを見し處の人々は如何に感せしや　二十七節

木曜日　馬可傳一章廿九節より卅四節まで

金曜日　馬太傳八章十四節より十七節まで路加傳四章三十八節より四十一節まで

附言　此の三福音ハ共に同じ話しなり

廿二、會堂を去りて後何處ヨ行きしや　可一〇二十九、

廿三、其處ヨて病み居りしものハ誰なるや　三十節

廿四、イエス其女ヨ何を爲せしや　三十一節

廿五、夕方其門ヨ誰等が集り來たりしや何故ヨ彼等多く來りしや　廿二、廿三節

廿六、何故ヨ彼等ハ夕方にあらざる前ヨ來らざりしや

答　ユダヤの律法に從ひ安息日の終らざる前に斯の如き業を爲すことを禁じありし故なり

廿七、凡て病める者をイエスハ如何ヨせしや　太八〇十六、

廿八、如何なる預言に叶ひ居るや　十七節と賽五十三〇四、を引比べよ

土曜日　馬可傳一章廿五節より廿九節迄路加傳四章四十二節より四十四節迄

廿九、次の朝早くイエスハ何處ヨ行きしや何故あるか　可一〇廿五、

三十、イエスを尋ね行きしハ誰なるや　三十六節

卅一、彼等イエスに何を望みしや　三十七節と路四〇四十二、を引比べよ

廿二、イエス彼等よ何んと答へしや　可一〇三十八、と路四〇四十三、を引比べよ

第五　議論問題

廿三、キリストが魚の奇跡を爲し玉ひしは如何なる目的ありしや　路五〇四—十一、

廿四、何故キリストは其弟子に彼等の業を棄て彼に從ふことを望みしや

廿五、奇跡の安息日の夜ペテロの家の門にありし有樣を述べよ

廿六、此章に載たるイエスの有樣と前にある章に載するところとは如何なる異ひあるや

第六　日課物語の筆記　第一章註八を見よ

第十章　イエス四人の弟子と共にガリラヤ傳道に從事し玉ふ

第一着

馬可傳一章四十節より二章十二節迄馬太傳四章廿三節より二十五節迄

馬太傳八章二節より四節迄九章二節より九節迄路加傳五章十二節より

銘句、イエスガリラヤを徧く巡り其會堂にて教をなし天國の福音を宣傳へかつ民の中なる諸の病もろ〳〵の疾を醫しぬ　馬太四〇廿三

馬可傳一章三十五節より四十五節を朗讀すべし

第一　復習問題　口答

一、イエス一代記の何篇を今學びつゝあるや

二、ナザレにてイエス如何なる待遇をうけしや

三、其後イエス其住家を何處に定めしや

四、イエス船中よりて教へ玉ひしは何處なるや

五、船と網を棄てイエスに從はしめ玉ひし四人の弟子の名を擧げよ

六、彼等を招き玉へる前にいかなる奇跡をあらはせしや

七、カペナホムにて奇跡の安息日にいかなる奇跡をなし玉ひしや

八、翌日の朝早くイエス何處に行きしや何の爲めなるや

九、人々ハイエスヨ何を望みしや又イエスハ何故拒み玉ひしや

十、此の章ハ何に付てなるや

十一、銘句を暗誦せよ

第二　聖書練習問題

一、魚の奇跡ハ何處ヨ記しあるや

二、イエス四人の弟子を招き玉ひし話ハ何處にあるや

三、奇跡の安息日の話ハいづこに記しあるや

四、何河ガリラヤ海を過流れをるや

五、此の河ハどの方角ヨ流れて何海に注ぐや

六、約新全書初めの四卷の名を述べよ

七、其四卷を何と云ふや

八、教師ハ二三の引合を出し生徒をして早く探し得るやを試むべし

九、生徒をして引合を撰バしめ他の生徒等互に之を探さしむべし

第三　日課物語

カペナオムにて奇跡の安息日を爲せし後、イエスガリラヤの市々を歴廻り福音を述傳へ、かつ病をいやし玉へり、船と網とを棄て、從ひし四人の弟子イエスと共にありき此の旅行ハ最も不思議なる旅行なりき、

イエスの奇跡をなし玉ひしこと、早くも、シリヤ地方まで擴まり、方々より多くの人々病ある者を携れ來れり、イエス悉く醫し玉ふ、此の旅行中おし玉へる多くの奇跡中聖書に記載しあるものハ、只癩病人のいやされしことのみ、イエスこの癩病人に手をつけ清くなれと謂ひて直ころに其病をいやし玉へり、此の病ハイエスの外誰もいやすこと能ハざる也、イエス彼に其醫されしことを誰にも告ぐる勿れ只祭司のもとに行きモーセの命せし捧げ物を捧げよと命じ玉へり、然れども其人イエスの言に從ハず其歩むところに曰ひ擴めたり、故に人々の中に騒ぎ起り遂に、イエスハあらハよ市に入ること能ハず、此の故にイエス陰かに人を避け玉へり、人々亦其處にもイエスを尋ねたり、

此の騒の終りたる後イエスひそかよカペナオムに歸へれり、然れども人々イエスの家よあるを知るや直に多くの者イエスを見んとて集まり來りて內外に充ちたり、此の時癱瘋を病めるものを舁來れり、其家の內に入ることあたわざるを見て屋根に升り瓦を取除て其人を床のまゝイエスの前よ縋下せり、イエス彼よ曰けるわ汝の罪赦されたり、其時イエスわ其人に床を取りて家よ歸れと命じ玉ふことに由り總て人の罪を赦すの力を有ち玉ふことを人々のまへよ示し玉へり、此後再び海邊に至りて道を宣べ玉へり、稅吏のマタイといへるものを招き玉ふ

第四　日課　筆答問題　九章註二十一を見よ

日曜日　馬太傳四章廿三節より二十五節まで

一、イエスカペナオムを去りし後何處にゆきまた何をなせしや　廿三節

二、人々イエスの許にいかなる者を携れ來りしやまたイエス彼等よ何をおせしや　廿五節

三、イエスに從ひしものわ僅なりしや　廿五節

月曜日　馬可傳一章三十九節より四十五節迄讀むべし

火曜日　馬太傳八章二節より四節迄路加傳五章十二節より十六節まで

四、此の旅行中よイエスのおし玉ひし奇跡の一を擧げよ可一〇四十一—四十二節此話の總ての個條をのべよ

五、癲病人とわ何にか

答　人の力よて醫すこと能わざる恐しき病を有つ人なり其人わ只獨り住まひ誰一人其者を助ける所でわおく捫る者さへもなかりし程なり若し其人外の人々の居る處に出でんとする時にわ直に石にて打殺さる

六、イエスの癩病人を醫せし後如何なることをせよと命せしや　四十四節

七、如何なることを禁せしや　四十四節

八、イエスの此事を命じ玉ひしは其醫しゝことに付き少しも人に語る勿れと云ふ意味なるや或の其清められしを祭司に見せる迄の語る勿れと云ふ意味かいづれなるや

九、其人キリストの命に從わざりしことに由り如何なる騷ぎ起りしや　四十五節

十、何故イエスの市の中にて多くの人々を集むるを望み玉わざりしや

答　多分イエスのローマの威勢に由て惱まされんことを恐れし也

附言　ユダヤ人の餘程激し安き人々あり彼等の屢々其支配人と爭ひを爲し而して又きびしき支配を受たり多の人々集り特にメシヤとすべき一人ありと云ふことに付ての最も目を注ぎ折あらば之をさし止めんとせりカペナオムよのローマの番兵も居りし也

水曜日　馬可傳二章一節より十二節迄讀むべし

木曜日　馬太傳九章二節より八節迄讀むべし

金曜日　路加傳五章十七節より廿六節迄讀むべし

十一、イエス直に何處より歸り玉ひしや　可二〇一

十二、イエスの其處よあるをきゝ人々如何よせしや　二節

十三、醫されん爲めつれ來られしものの誰か　三節

十四、癲瘋とは何よか

答　此の病の身体の諸部をして感覺なからしむるに至る折々全身に及ぼ

す事あり

十五、此人を伴れ來りし者ハ如何にしてイエスの前ヨ置くことを得しや　四節

十六、ユダヤの國ヨでハ如何なる屋根の建方なるや

答　屋根ハ平たくして壁土又藁等を垂木の上ヨ乘せ置くなり

十七、イエス始ヨ其者ヨ何と云ひしや　五節

十八、イエスの言葉を聞きたる學者等ハ如何ある考を持ちしや　六、七節

十九、イエスハ人の罪を赦の力を持ち給ふ事を如何ヨ顯ハせしや　十—十二節

土曜日　馬可傳二章十三、十四節馬太傳九章九節路加傳五章廿七節廿八節を讀ひべし

二十、イエス家を出再び何處にて人々ヨ教へ玉ひしや　可二〇十三、

二十一、後イエスハ誰を弟子に撰みたるや其名ハ何と云ふや

可二〇十四と太九〇九、を引比べよ

二十二、稅所とハ何ヨか

答　稅を納める所なり

二十三、此の人ハ福音書中の何書をかきしや

二十四、此時イエスハ幾人の永從の弟子を得玉ひしや其名を擧げよ　口答

第五　議論問題

附言　此ヨ記せる問題ハ小兒にハ少してたへ難きところあらん然れども其に相考へ且つ語るところあるべし青年達ヨハ容易ヨ答へ得べきなり

總て暗誦の句い能く覺にさすべし

二十五、罪を赦し得るものい誰なるや

二十六、基督人々の罪を赦し玉ふにいいかなる事を御身に受け玉はねばならぬか

二十七、基督より由り罪の赦しに付ペテロいコルヂリオよいかあることを述べしや　使十〇四十三、暗誦

二十八、若神のみ人の罪を赦すとすれば基督より由りての罪の赦いいかになるや　哥後五〇十八、十九、特に十九節初

二十九、罪の赦しを受くるに此の外他に方法あるや　使四〇十二節暗誦

第六　日課物語の筆記　第一章註八を見よ

第五篇

基督傳道上の變革、安息日議問

教師は左の註を讀み其必要なるところを生徒より解くべし

註廿二、此篇にい三ツの記事あり各安息日に起りし事なり、即ちエルサレムのベテスダの池にて病ある者を醫したること、弟子の麥の穗を摘食ひしこと、ガリラヤよて片手なへたる人をいやしたることなり、此等のなされし期い定かならず、然れども此の中の始のことはエルサレムよてイエスがユダヤ人より惡しき待遇を受けし始めならん、又此の中の終りいガリラヤにてパリサイ人彼を捕へんと企てし始なり、爰よ心得置く可きいイエスが此の安息日につき議論なし給ひしいこれイエス傳道より從事なし玉ひし後變革の起りし初にして此の時よりユダヤ人い初い陰かにイエスを捕へんと謀り、次にいあらいよ此の謀を行ひ終よ之を成就せり、

第十一章　ユダヤ人の恐るべき反對の初まり

約翰傳五章一節より四十七節迄馬太傳十二章一節より十四節迄馬可傳二章二十三節より三章六節迄路加傳六章一節より十一節迄

銘句、また彼等は曰けるは安息日は人の爲に設けられたるものにして人は安息日の爲に設けられたるものに非ず　可二〇二十七、

約翰傳五章一節より十八節まで朗讀すべし

第一　復習問題　口答

一、此の前三安息日に學びしは一代記中の何篇なるや
二、其篇中の章題を悉く述べよ
三、今學ばんとする篇は何篇なるや
四、カペナオム奇跡の安息日の後イエス何處に行きしや
五、イエスと共に行きしものは誰なるや
六、此の旅行中にイエスはいかなる事を爲せしや
七、此の時イエスの爲し玉へる奇跡の一つを述べよ
八、カペナオムに歸りし時人々はイエスをいかにうけしや
九、如何なる奇跡を或る家にてなし玉ひしや

十、其後イエス己に從はしめ玉へる弟子は誰なりしや
十一、幾人の弟子を得玉ひしや其名を擧げよ
十二、此の章の題は何なるか
十三、銘句を暗誦せよ

第二　聖書練習問題　口答

一、癩病人のいやされしことは馬可傳の何章にあるや
二、馬可二章一節より十二節までにいかなる奇跡が記しあるや
三、路加五章に三ツの奇跡記しあり何々なるや
四、此の中いづれの奇跡がイエスのガリラヤ第一傳道の前にありしや
五、此の中いづれが此の傳道中にありしや
六、此中いづれがカペナオムに歸りて後にありしや
七、ガリラヤカペナオムカナナザレスカルエルサレムベツレヘムを地圖にて指すべし

八、各生徒をして引合せを出さしめて互に探すべし

第三　日課物語

此の章にハパリサイ人がイエスを憎嫌ふ初まりを記す、其理由ハ安息日の守法より付起りし也、パリサイ人ハ安息日を守るに多くの規則をもてり、其規則中ハ實に笑ふ可きものもあり、イエスハ此等の規則通りに從ひ玉ハざりき、節の時エルサレムにてイエス安息日にベテスダの池に居る病る人に向ひ其床を取りて歩めといひて醫し玉へり、之れパリサイ人の法に反きたる也、是に由り彼等大いに怒りイエスを殺さんと謀る、後ガリラヤに歸へれる時其弟子安息日に麥畑を過ぎ其穂を摘て食へり、パリサイ人ハ之れ律法に反けりと云ふ、且つイエスハ自ら安息日の主なりと云ひ玉へり、又安息日をいかに守るべきやを教へ後また手なへたる者を醫し玉ふ、これ亦パリサイ人の律法に反ける也、彼等ハこれを見増々怒り遂にイエスを死に渡さんとて評議をひらきたり、是よりしてパリサイ人イエスを増々憎み遂に十字架に釘くるに至る

第四　日課　筆答問題　第九章註二十一を見よ

教師ハ左の註を讀み生徒に其必要なる所を説くべし

註二十三、約翰傳五章一節にある節を不明の節といふ、如何となれば此の節ハ何の節なるや定め難し、キリストの、ガリラヤ傳道の時代の配合とキリストの生涯中の傳道の長短に付ての説ハ此の節の定不定に關す、多くハ此節を殿清めの節なりといふ、若し此の説に由れバキリストの傳道の期ハ二年ならざるべからず而して此の節に順がひて起りたる事柄ハ此の前に記さいるべからず、然れども一般に考ふる説に由れバ、キリスト傳道中の第二逾越の節なりとす、之れに由りてキリストの傳道ハ即ち三ケ年間あり、三ツの逾越の節ハ約二〇十二、六〇四、十二〇一にあり、此の両説の正不正ハ兎も角もキリストのサマリヤの井にて婦と語りし時より野にて五千人を養ひ玉ひし時まで、即ちイエスのガリラヤ傳道の著しき事柄ハ眞實にして、且ツイエス生涯中の最も著明なる部をしむ、此等の事

柄の正順ハ重に色々説の分るゝところあり、即ち此等ハ數月の間に起り
し事か或ハ一年餘も間のあり、て起りし事か種々の説異ありて一定し難
し

日曜日　約翰傳五章一節より十六節迄讀むべし

一、イエスガリラヤより何所に行きしや　一節

二、病を醫されん爲に人々の行きし池ハ何と云ふや　二三節

三、其池ハ何よか

答　大なる石の水溜あり

四、此の池に待ちをりしものハ誰なるや　五節

五、イエス其人に何を爲しや　六節より九節まで口答

六、ユダヤ人其人床をとりてあゆむをみて互に何と云ひしや　十節

附言　ユダヤ人ハ安息日に物をはこぶことを甚だきびしく誡め只一片のパンをも市よもちあるかざりし程也

七、イエスが此事を爲せしに由りユダヤ人ハ如何なる思をもちしや　十六節

月曜日　約翰傳五章十七節より二十九節迄

八、イエスユダヤ人に何と答へしや　十七節

九、イエスの答へしことに由りユダヤ人いかに思ひしや是れ何故なるや　十八節

十、イエスハ如何なることを爲しうると日ひしや　十九節

十一、イエスの此世を支配し玉ふ力に付いかなることを彼等に告しや　廿二節

十二、死を甦らすことにつきいかなることを告げしや　廿五節

十三、若し此れ等の語りしことば僞りとせばイエスの如何なる人と云ふ可きや

十四、イエスの眞實にいかなる人なるや

火曜日　約翰傳五章三十節より四十七節迄讀むべし

十五、此の所に於てイエスの告げ玉ひしことの眞實なるを證明するに四つの證を擧ぐ第一の誰なるか　三十三節と約一〇十九と廿六―三十を引比べよ

十六、第二の何か　三十六節

附言　業とのイエスの爲せし奇跡をいふあり

十七、第三の誰なるか　三十七節の初と太三〇十七を引比べよ

十八、第四の何か　三十九節

附言　此に示せる聖書とのユダヤ人の各々注意して舊約書を讀み且つ其中にのイエスに付て多の預言あれば なり

水曜日　馬可傳二章二十三節より二十八節まで讀むべし

木曜日　馬太傳十二章一節より八節迄讀むべし　路六〇一―五を引合せよ

十九、此後安息日にイエスの弟子何をなせしや　可二〇二十三

二十、パリサイ人是を見て何といひしや　二十四節

廿一、イエス安息日に付て何といひしや　二十七節銘句

廿二、安息日の主ハ誰なりといひしや　二十八節

廿三、此の意味ハ如何

答　イエスハ安息日の主たるが故にパリサイ人より熟く其守法につき知り玉ふといふこと也

金曜日　馬可傳三章一節より六節迄讀むべし

土曜日　馬太傳十二章九節より十四節まで路加傳六章六節より十一節までを引比べよ

廿四、安息日にイエス會堂にて誰に逢ひしや　可三〇一

廿五、何故パリサイ人ハイエスに目を注ぎしや　二節

廿六、イエスハいかなる問をパリサイ人に尋ねしや

四節と太十二〇十一、十二とを引比べよ　口答

廿七、其時イエス其人に何をなせしや　可三〇五

廿八、此を見てパリサイ人ハいかなる感をもちしや　路六〇十一

廿九、彼等ハ何を爲したるや　可三〇六

三十、何故イエスが安息日をなしたることに付甚だ怒りを懷きしや

答　イエスハパリサイ人が守る律法に從ハず、且つイエス自ら其律法を作るの權威を有てりといひしが故なり

卅一、誰が安息日を清く守れと命せしや

出埃及記二〇一、二と八—十一、八—十一を暗誦せよ

世二、イエスハ我曹に安息日はいかなる正しきことをすべしと教へしや　太十二、十二の終り

第五　日課物語筆記　第一章の註の八の終りを見よ

第十二章　復習

基督降誕より傳道上の變革迄

銘句答案

附言　凡て銘句を暗誦し得れば全級一同をして暗誦せしむべし又銘句中にある答を讀むも可なり

一、教師、キリストの此の世に降りし前は誰でありしや

生徒、最初に道あり道は神と共にあり道は即ち神なり道肉体となりて我曹の中に宿れり　約一、一、十四

二、キリストのナザレにて成長し玉ひし其間の有様如何

イエス智慧も年齢も彌増り神と人とに益愛せられたり　路二、五十二

三、キリスト洗禮を受け玉ひしとき神の子として如何なる証據ありしや

イエスバプテスマを受けて水より上れるとき天忽ち之が爲めにひらけ神の靈の鴿の如く降て其上に來るを見る又天より聲ありて此は我心に適わが愛子なり　太三、十六、十七

四、野に於ての試の時イエスは終に如何なる言葉を以て惡魔を退けしや

イエス彼に曰けるはサタンよ退け主たる汝の神を拜し只之にのみ事ふべしとしるされたり終に惡魔彼をはなれ天の使達來り事ふ　太四、十、十一

五、イエス試を受けヨルダン河の邊りに來りし時ヨハネ彼を指して何と云ひしや

イエスの己に來るを見て曰けるは世の罪を負ふ神の羔を觀よ　約一、廿九

六、イエスニコデモに如何なる大眞理を語り玉ひしや

イエス答へて曰けるゝ誠よ〳〵我汝よ告げん人若新たに生れずば神の國を見ること能ず　約三〇三

七、井の傍にてイエス婦よ神の事と亦神を拜するに就き如何なる眞理を語りしや

神ゝ靈なれば拜するものもまた靈と誠とを以て拜すべきなり　約四〇廿四

八、ユダヤよりガリラヤよ歸り玉ふ後イエス如何なることを爲せしや

此のときイエス初めて道を述べ傳へ天國ゝ近づけり悔改めよと云ひ玉へり　太四〇十七

九、イエスシモンアンデレーを其眞の弟子となし玉ふとき彼等よ何と曰しや

彼に曰けるゝ我に從へ我汝曹を人を漁どる者となす彼等やがて網をすてイエスよ從がふ　太四〇十九、廿

十、奇跡の安息日の後イエス四人を伴ひ何處に行き且何を爲せしや

イエスガリラヤを普く巡り其會堂よりて教をなし天國の福音を宣傳へかつ民の中なる諸〳〵の病もろ〳〵の疾を醫しぬ　太四〇廿三

十一、安息日のことに付きイエスパリサイ人に何と云ひしや

彼等よ曰けるゝ安息日ゝ人の爲めに設けられたるものにして人ゝ安息日の爲めに設けられたるよあらず夫れ人の子は安息日よ主たるなり安息日に善をなすゝ善し　可二〇廿七、廿八太十二〇十二

筆答問題

註廿四、此の問題ゝキリストの生涯中の緊要なる事柄を順次に示す

第一篇　基督の降誕并よ三十年間普通の生活

日曜日　午後　約翰傳一章一節より十八節を讀むべし

註廿五、問題の側一行殘したる處ゝ筆答よして他ゝ口答なり答案ゝ第一の答案の例よ從ひ簡短に記すべし

一、基督此世に降りし前ゝ誰とあり居りしや　約一〇一—三

答　萬物を作り玉ひし限りなき神聖なる道なり

二、キリストの生れしとき如何なること起りしや　路二〇八―二七、
答　天使讃歌を唱ひ羊牧者彼を見舞り
三、何處にて誰が彼をメシヤとしてあがめしや
答　殿よてシメオンとアンナの二人あり　路二〇廿二―廿八、
四、遠方より彼を拜せん爲め來りし者ハ誰なるや　太二〇一―十二、
五、イエスの幼き時何處に携れ行れしや何故か　太二〇十三―廿三、
六、十二歳の時何處に行しや　路二〇四十一―五十二、
七、何故其天にある住まひを棄此世に降りしや
八、此篇中にある章名を悉く擧げよ

第二篇　傳道の準備

月曜日　約翰傳一章二十九節より五十一節迄讀むべし
九、此篇よて最初の起りしことハ何なりしや　太三〇十三―十七、
十、第二、何か　太四〇一―十一
十一、彼をメシヤとして表はせし者ハ誰なるか　約一〇廿九、廿四、
十二、次の二日の間よ得たる五人の弟子の名を擧げよ　約一〇廿五―五十一、
十三、第一の奇跡ハ何なるか　約二〇一―十二、

十四、バプテスマのヨハネとハ誰なるや

十五、三ツの試みを擧げよ

十六、ヨハネのイエスを呼びて神の羔と曰ひしハ如何なる意味なるか

第三篇　傳道の初まりユダヤに道を傳へ多くの人の注意を引き且其數人の弟子を作り玉ふこと

火曜日　約翰傳三章一節より廿一節迄

水曜日　同四章一節より廿六節迄

十七、イエス傳道を如何ヨ初め玉ひしや　約二〇十一―廿五、

十八、夜イエスに話さんとて來りし者ハ誰あるか　約三〇一―十五、

十九、ユダヤを去り何處に行きしや　可一〇十四太四〇十二、

二十、途中にてイエス誰と語りしや　約四〇四―四十二、

廿一、新に生る再び生るとハ如何なる意味なるや

廿二、聖書中の最美しき句を暗誦せよ

廿三、此第一ユダヤ傳道ハ幾月程の間なるや其結果如何

廿四、井の傍にて女に如何なる眞理を表ハし玉ひしや

廿五、此篇中にある章を悉く擧げよ

第四篇　ガリラヤ傳道の初歩人望增進の期

木曜日　路加傳四章十四節より卅一節迄

金曜日　馬太傳四章二十三節より廿五節馬可傳二章一節より十四節迄

廿六、カナに歸りて如何なる奇跡を爲せしや　約四〇四十六—五十四、

廿七、彼の拒まれしい何處なるや其後いづこに住家を定めしや　路四〇十四—卅

廿八、四人を撰び玉ふ前よ如何なる奇跡を爲せしや　路五〇一—九、

廿九、其四人の名を擧げよ　可一〇十六—二十、

三十、馬可傳一〇廿一—卅四よ示せる安息日を何と名くるや

卅一、次の朝早く何處に行きしや何故か　可一〇卅五—卅九、

卅二、後ち如何なる旅行を爲せしや又其中如何なることありしや　太四〇廿三—廿五

卅三、此の旅行の中よ爲せし奇跡を擧げよ　可一〇四十—四十五、

卅四、カペナオムに歸りて後なせし奇跡を擧げよ　可二〇一—十二、

卅五、其次に誰を弟子に招きしや　可二〇十三、十四、

卅六、奇跡の安息日に如何なる奇跡をなせしや

卅七、此篇中にある章を悉く擧げよ

第五篇　變革安息日議問

土曜日　約翰傳五章一節より卅節まで讀むべし

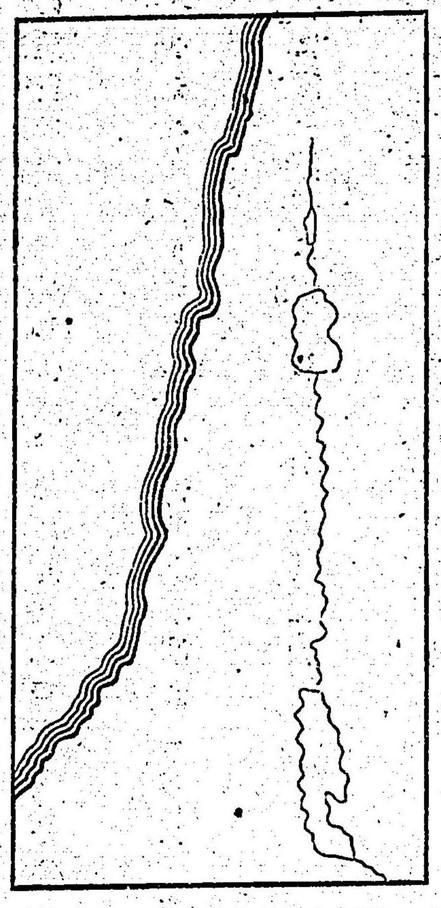
卅八、ベテスダの池にて如何なる奇跡を爲し玉ひしや　約五〇一—十六、

卅九、ガリラヤよて安息日に誰をいやせしや　可三〇一―六、

四十、何故ユダヤ人ハイエスを殺さんと謀りしや

四十一、安息日よ如何なることを爲すべしと曰ひしや　太十二〇十二終、

四十二、茲に載する地圖によりイエスの凡て行き玉ひし處を示すべし



基督復活

此の課ハ特に復活日に付き學ばんとする者の便を量りてあせるあり

銘句、我曹をして我主イエスキリストによりて勝を得しむる神に謝す　哥前十五〇五十七節

馬太傳二十八章一節より二十節を讀むべし

第一日課

日曜日　哥前書十五章一節より十節迄

月曜日　哥前書十五章一節より十九節迄

火曜日　哥前書十五章二十節より二十八節迄

水曜日　同十五章三十五節より四十一節迄

木曜日　同十五章四十二節より四十九節迄

金曜日　哥前書十五章五十節より五十八節迄

土曜日　默示錄七章九節より十七節迄

第二　筆答問題

日曜日　午後哥前書十五章一節より十一節迄讀むべし

一、復活日とハ何か

答　基督の死より蘇生玉ひし日の祝なり

二、基督の死より復活せりとハ如何なる意味なるか

答　基督十字架に釘けられて死し且葬られて復た蘇生りたり

三、何故我等復活日を喜ぶや

答　死より蘇生し給ふ事に由りキリストハ神の子且つ世の救主たることを證明せるが故なり

月曜日　馬太傳二十八章一節より十節まで讀むべし

四、キリストの死より蘇生し事を如何にして知るや

答　如何となれバイエスの蘇生て昇天爲し給ふ迄四十日の間屢々其弟子等に顯れ給ひし故なり

五、十字架に釘られし後イエスの死体は何處に置れしや　太二十七〇五十九—六十、

六、三日目の朝早く墓ヨ於て如何なる事が起りたるや　太二十八〇二、

七、第一にイエス誰に顯はれしや

答　墓ヨ來りし女ヨ顯れ給ふ　太二十八〇一—十路廿四章十節を引合すべし

之れハ確なる答をなし難し、墓の空しき事を弟子に告げんとて走り行きしハマグダラのマリアなりしが如し此女の行きし跡にハ其外に殘り居りし女等あり其女等にイエスハ先づ顯れ給ふマリア再び歸り墓の傍ヨて泣き悲しみ居りしときイエス來りて彼を慰め給ひしより此故ヨ由り此の答を爲す

火曜日　約翰傳二十章十一節より十八節を讀むべし

八、イエスマグダラのマリヤヨ顯れ給ひしとき如何なる事がありしやを述べ

よ　約二十〇十一―十八、

九、次よイエスよ逢ひし者ゝ誰か　哥前十五〇五、初

ケパとゝシモンペテロの別の名なり路加傳廿四章三十四節にイエス甦り給ひし日ペテロに顯れし事に付き見る所あり

水曜日　路加傳二十四章十三節より四十九節迄讀むべし

十、其夕方頃イエス又誰よ顯はれしや　十三ト三十五節其話を委しく述べよ

十一、夕方にまた誰よ顯はれしや　三十六―四十九節

木曜日　約翰傳二十章二十四節より二十九節を讀むべし

十二、夕方イエス弟子等よ顯はれしとき供に居らざりし者ゝ誰あるや　二十四節

十三、弟子等其見し所の者を告げしときトマス彼等に何と云ひしや　二十五節

十四、其弟子よ何時顯はれしや彼とイエス互に如何あるとを語りしや　約二十〇二十六―二十九、口答

金曜日　約翰傳二十一章一節より十四節迄讀むべし

十五、イエス其弟子等に再び何處よて顯はれしや　一―四節

十六、先よ彼等と共よありて守り玉ひしイエスも今彼等に顯ゝれ玉ふも之れ等しきイエスなりと云ふ事を如何よして顯ゝせしや　五―十二節　口答

十七、此後顯ゝれしとき彼を見しゝ誰なるや　哥前十五〇六、

十八、イエスゝ一人誰よ顯ゝれしや　哥前十五〇七節初

十九、最後よイエス其弟子よ何處にて顯ゝれしや　徒一〇四、

二十、何處より彼等を連れ行きしや　路二十四〇五十、

廿一、其處より如何なる事起りしや　路二十四〇五十一、徒一〇九、

廿二、是れ迄記載する處より由れば何度顯われ給ひし乎
各々其順序を記し組よて讀むべし

土曜日　默示錄七章九節より十七節迄讀むべし

廿三、イエスの世を去りし後弟子の爲めより何を爲すと云ひ殘せしや

約十四〇二、三暗誦

廿四、イエスの愛する弟子なるヨハネのイエスと供にある人々の有樣を如何に書き顯わし居るや　默七〇九—十七、
其處にある人數の幾何なるやまた其人々の何を爲し居るかを語れよ(九、十)
また神の如何に彼等を愛護なし玉ふかを語れよ　十五—十七、

廿五、誰より由て我等の罪と死に勝ち幸福なる所に行く事を得るや　哥前書十五〇五十七、銘句

廿六、キリスト若し死より甦らざりしならば此の如き事の爲し得るや
答　否若しキリスト死より甦がへらざりしならば我等に救主なし

第六篇

ガリラヤ傳道の續き、大なる働き人望の增加、パリサイ人反對の增進

註廿六、此篇のキリストの傳道の第二年目のことを記す此年の一喜一憂の年なりき、此年間パリサイ人イエスに反對す初めの密より後ち遂より顯明に企てたり、然れども人々イエスの多くの不思儀なる奇跡又其慈愛なる言によりて益々彼を信ずる者加へり彼の五千人を養ひ給ふときよりの殆んどイエスを王と爲さんとするが如きに至る此中最も著しきこと并

に教へゝ十二人を撰び玉ふこと、山上の説教、第二第三ガリラヤ巡回傳道
湖の東岸に二度の旅行譬の第一集、生命のパンの話に由り人々イエスを
離れしことなり

第十三章　十二人を撰び給ふこと並に山上の説教の一部

馬可傳三章七節より十九節ゝ至る馬太傳十二章十五節より二十一節ま
で十章二節より四節まで路加傳六章十二節より十九節までを引照せよ
馬太傳五章一節より四十八節までと路加傳六章二十節より三十六節ま
でを引照せよ

銘句　我おんぢらに告ん學者とパリサイの人の義よりも汝等の義こと勝
ずば必ず天國に入ること能じ　太五〇廿

馬太傳五章一節より二十節までを朗讀すべし

復習問題　口答

教師へ

註廿七、凡て此等の課目をよく生徒ゝ覺へさせんにゝ復習問題をよく
學ばしむるにあり、キリストの生涯に爲したる著しき事柄を順序正しく
各々の心に覺へしむるを最も肝要ありとす、又生徒をして平常より課目
の仕度をなし置き日曜學校に來りしとき多く時を費さゞるやう即ち問
を出せば直に答へ得るやうゝ爲さしむべし、復習を勉めて學ぶと學ばざ
るゝ由り各々記憶上大なる差あり

一、ガリラヤ巡回傳道のとき人々のイエスに對して有ちたる感情ゝ如何

第十章を見よ

二、安息日にエルサレムにて如何なる奇跡を行ひしや其ゝ由てユダヤ人ゝイ
エスを何ゝなさんと云ひしや　第十一章の始

三、安息日ゝイエスガリラヤにて如何なる奇跡を爲せしや其に由てパリサイ
人ゝ如何なる思を有ちしや　十一章終

四、今此に學ばんとするゝ何篇なるや

五、此章の題い如何

六、銘句暗誦

第二　聖書練習問題

一、安息日のベテスダの池より愈されし人の話い何處よあるや

二、安息日より手枯たる人を愈せし話い馬可傳の何處よあるや

三、出埃及記二十〇八―十一を讀むべし是れい何番目の誡あるや

四、馬可傳二〇廿七を見よ此句い誰の言葉あるや

五、舊約書の最初と最後の書の名を述べよ

六、新約書の最初と最後の書名を述べよ

七、此聖書問題中既より引照に用ひたる書い創、出、結、詩、箴、羅、馬、西、來、哥前、哥後、默、使、なり、此等の略字を完全よすべし亦此等の書を速かに探し得るやうすべし

第三　日課物語

イエス安息日に手枯たる人を愈したることよりてパリサイ人己を殺さんとするを知りガリラヤの濱邊より至れり多の人彼に從ひ其病ある者を伴れ來れり、イエス悉く之を愈し玉ふ是に由て彼より反對する者よい益々怒を興ふるが故イエス人々に告ぐる勿と固く誡め玉へり既より第九章十章よて學びたる如く此より前よイエスペテロアンデレーヤコブヨハネヤタイを撰み玉ふ此時より當り多の從へる人々の中より人を撰み以て彼を絶へず助けまたイエス世を去りたる後ち猶其教を播めんが爲め其眞理を教ゆ可き者を其中より撰むべき必要を感ず玉ふ之れは最も肝要あることなり故にイエス彼等を撰み玉ふ前より山より行きひそかより夜神に祈を爲し玉ふ朝に至りてイエス彼等の中より十二人を撰みたり其人達を使徒と名づく此の人達よイエスの名より由り奇跡を行すの力を授けたり十二人の中五人は前より一切を棄て從はしめ玉ひし者なりイエス其十二の弟子と共に廣き野に至れり其處い多くの病を愈したる處よしてイエス其あたりよある山に登り其處にて山上の説教をなせり

註廿八、問の側一行殘したる所よゝ答案を記すべし其他ゝ皆口答あり
毎日答案を少しづゝ簡短に作り記すべし聖書より取り決して他人より
寫し取る可からず此等の問題を能く心よ銘じ常に答に差支あきやうよ
すべし

日曜日　午後　馬可傳三章七節より十二節迄馬太傳十二章十五
節より廿一節迄讀むべし

一、パリサイ人のイエスを殺さんと謀りしを知り何處よ行きしや　可三〇六、七、

二、彼よ從しゝ誰なるやイエス其人々よ何を爲せしや
可三〇七―十一、太十二〇十五、を引合

三、總て醫されしものにゝイエス如何なることを命せしや　太十二〇十六、

四、何故なるや（日課語を見よ）

月曜日　路加傳六章十二節より十九節迄馬可傳三章十三節より
十九節迄馬太傳十章二節より四節迄讀むべし

五、イエス海邊を去り何處にゆきしや其夜如何よ過し玉ひしや　路六〇十二、

六、其多の弟子達の中より使徒たる者を何人撰び玉ひしや　十三節

七、此使徒達ゝ何をなすを望みたるや　可三〇十四、

八、如何なる力を彼等に授けしや　十五節

註廿九、イエス多の弟子を有てり然ど使徒となすべきものゝ只十二人
のみ福音書中にゝ屢弟子と云ふ語を使徒と云ふべき所よ用ひたり又凡

てイエスに從ふ多の弟子を指して云ふところもあり然ど其用法により
いづれなるやゝ明なり　百三十六
九、十二使徒の名ゝ如何左に記す例よ從ひ二人つゝ記すべし　太十〇二、四、
例　ペテロとアンデレ
と　と
と　と
十、次の日如何なる人々イエスの許よ來りしやイエス彼等よ何を爲せしや
路六〇十七―十九、
火曜日　水曜日馬太傳五章一節より十六節迄路加傳六章廿節よ
り廿六節迄讀むべし
十一、多くの人々を見てイエス何を爲したるや　太五〇一、二、
十二、生徒、馬太傳五〇三―十一迄をよく記憶すべし各節の中重なる語を覺へ
置く即ち左に掲ぐる如くすべし

一　貧者……天國　三節
二　悲む……慰め　四節
三　柔和……續ぐ　五節
四　餓……飽　六節
五　恤み……得る　七節
六　清き……見る　八節
七　和平……子と　九節
八　責めらるゝ……天國　十節

三節より六節迄暗誦
十三、水曜日七節より六節迄暗誦
金曜日　教師ゝ右の問を此書冊通でなく別に言葉を加へて問ふ
べし且此三―十一節を生徒に覺へしめまた其重なる言
百三十七

語を暗誦せしむべし

十四、心の貧きとは何か

答　神の愛と助を求め且己の罪を彼の前より悔改むることなり

十五、悲むとは如何なることか

答　罪を悲むこと即ち悔改むることなり

十六、柔和とは何か

答　温順なることよりして輕々しく怒らず惡を以て惡より報いざることをいふ、眞誠の信者は柔和なり故に遂には地を續ぐことを得るなり

十七、餓渴く如く義を慕とは何か

答　恰も人餓たるときに食物を慕ふ如く正きを熱心より求むることを云ふ

十八、恤あるとは何か

答　惱むものには親切を爲すこと、特に己に向つて惡ことを加へしものに對しても恤みあることなり神は我等罪人を恤み給ふ也

十九、心の清とは何か

答　種々の惡類を思ぬことなり

二十、和平を求むるとは如何なる人か

答　互に爭を爲すものを諫め夫れを止めさせ又キリストの如く神と人とを和がしむるものなり

廿一、正しきことの爲より責らるゝとは如何

答　正を爲すことに由り人より恥かしめられ卑めらるゝをいふ

土曜日

廿二、馬太傳五〇十三にイエス其弟子を何と呼びしや

廿三、十四節よりは何と呼びしや

廿四、十六節にて何を爲すべきを語りしや

廿五、人々の前に光を輝すとゝ如何あることか

第五　日課物語筆記

註三十、右の個條に從つてなすべし

第一、凡て章中よある事柄を記すべし章中にある日課の物語を例として爲し可成簡短に且意をよく通ずるやうになすべし

第二、凡て事柄に引照をつけて其年代を明にすべし

第三、小冊よ聖書の引合を取りて貼付以て基督一代の話を接續すべし此ゝ特よ必要あり或る人ゝ之を爲すよ色々圖畫を傍らに貼つけて以て美麗き小冊子を作るもの、もあり、かくするに當り其篇と章題を明かよし、また其各部よ章の分解を置き且つ傍に其實理を書べし

第十四章　山上の説教續きの終り

馬太傳六章一節より八章一節まで路加傳六章卅七節より四十九節まで

銘句、我を召て主よ主よと曰ふものの盡く天國よ入よ非ず唯これに入者ゝ我天に在す父の旨に遵ふ者のみ也　太七〇二十一、

馬太傳六章十九節より三十四節を讀むべし

第一　復習問題　註二十七を見よ

一、今學びつゝあるゝ何篇なるや

二、此前章にて如何なることを學びしや

三、パリサイ人イエスを殺さんとするを聞何處よ行しや

四、十二使徒を撰み玉ふ前夜何をなし玉ひしや

五、彼等を撰し翌朝何處に行しや

六、其日いかなる教を傳へしや

七、馬太傳五章三節より十一節までを暗誦せよ

八、此の章題ゝ何か

九、銘句を暗誦すべし

第二　聖書練習問題　註二十八を見よ

一、路加傳六章に安息日とイエスの事につき如何なる話記しあるや

二、馬太傳の何章に十二使徒の名は記しあるや其名を二人づゝ擧げよ

三、山上の説教は馬太傳の何章とあるや

四、路加傳とゝ何章とあるや

五、四福音とゝ續ての四卷ゝ何とか順序とゝ述べよ

六、創出、申、民、利を見出すべし

日課　筆答問題　註二十九を見よ

此の前週とゝ山上の説教を學ぶ此の週もまた其續をなすなり

日曜日　午後　馬太傳六章一節より十八節まで

一、施濟を爲すとつきキリストの規則ゝ如何　三節

二、祈りの規則は如何　六節

三、何故我儕ゝ施濟また祈禱を陰になすべきや　四、六節

四、イエスゝ施濟或ゝ祈禱を一切人の前にてする勿れといふ意味かまたゝ人々によく賞られん爲にすること勿れといふ意味かいづれあるか　口答

五、弟子達とゝ教たる祈を何と名くるや　九―十三節

六、神の免を希ふものゝ他人に向つて何をなすべきか　十五節

七、財をどことゝ蓄ふ可きや　十九、廿節

月曜日　馬太傳六章十九節より廿四節まで

八、何故に如此なす可きか　廿一節

九、是我儕金錢を儲けまた貯へを爲すこと勿れと云ふ意味か又ハ我儕の心を之にのみ注ぎ之を以て生涯中の最も肝要なることゝなすべからずといふ意味か孰なるや

十、二人の主に事へるといふ事ヨ就イエスハ何と言しや　二十四節

火曜日　馬太傳六章廿五節より卅四節まで

十一、烏頸或ハ花木を養ひ玉ふものハ誰なるか　廿六、廿八—卅節

十二、神ハ如此ものを養ひ玉ふなれば我儕ハ神に對し如何なる信用をおかねばならぬか　卅—卅二節

十三、我儕まづ何を求めねばならぬか　卅三節暗誦

十四、此の意味ハ神の我儕ヨ賜ふものを以て足れりとし少しも働をなさぬといふ意味かまたハ只衣のこと或ハ食物のことのみヨ心を慮す可からずと云ふ意味なるや　口答

水曜日　馬太傳七章一節より六節まで路加傳六章三十七節より四十二節まで

十五、他人の罪を如何にあす可きや　太七〇一—二、

十六、己の罪と人の罪といづれが見安きか　口答

十七、己に罪あるを知らず人の罪を見て彼是いふものを如何ヨたとへしや　三—五節

木曜日　馬太傳七章七節より十二節まで

十八、七八節を暗誦せよ

此の両節に於てイエスハ尋ね求め叩くものヨは各々其に應じ玉ふか此意味ハ如何

答　我儕熱心に神に願ふときは必ずきゝ給ふといふことなり

十九、神の我儕より聞給ふにつき如何なる比較を示せるや　十一節

二十、人に接するようつきて如何なる法をイエスは與へしや　十二節暗誦

廿一、此の節を何と云ふや

答　金言といふ

金曜日　馬太傳七章十三節より廿節まで路加傳六章四十三節より四十五節まで

廿二、神を眞に愛すると愛せざるとは如何にして知るや　十六―廿節

廿三、善果とは如何なる意味か　加五〇廿二廿三、

土曜日　馬太傳七章廿一節より八章一節まで路加傳六章四十六節より四十九節まで

廿四、我儕天國に入るには何をなすべきか　太七〇廿一、銘句

廿五、イエスの言を聞き之に從ふ者を何にたとへしや　廿四、廿五節

廿六、イエスの言を聞き之に從はざるものを何にたとへしや　廿五―廿七節

廿七、岩の上に家を建つるとは何か

廿八、キリストの此の教を聞きて人々如何に感せしや又何故か　二十八、廿九節

廿九、山上の説教に教へられたる重なる眞理は何か何節を最も好むや其理由を述べよ（此問を生徒各に尋ぬべし）

第四　隨意の課につきて第十三章註三十を見よ

第十五章　バプテスマのヨハネの最終の使者並にキリストの奇跡と其教へ

路加傳七章一節より五十節まで馬太傳八章五節より十三節まで同十一章一節より三十節まで

凡て勞たる者また重を負る者ハ我ヨ來れ我なんぢらを息ません我ハ心柔和にして謙遜者なれバ我軛を負て我に學へなんぢら心に平安を獲べし蓋わが軛ハ易くわが荷ハ輕けれバ也　太十一〇二十八―三十、

馬太傳十一章一節より十五節を朗讀すべし

第一　復習問題　註二十七を見よ

一、今イエス一代記の何篇を學びつゝあるや

二、此の初ヨイエス如何なる教を人々になし玉ひしや

三、此の說教の初めヨイエスハ如何なることをなし玉ひしや

四、如何かる人ハ幸福なるや

五、人に施とまた祈ることヨハ如何あることを教玉ひしや

六、財を蓄ふことヨハ如何なることを教玉ひしや

七、祢の我等を守り玉ふことにつきて何を曰玉ひしや

八、人の罪をゆるすことヨハ如何なることを曰玉ひしや

九、尋ね求め叩くことに付てハ如何

十、岩の上に家を建つることヨハ如何

十一、金言とは何なるや

十二、此の章の題ハ何なるか

十三、銘句を暗誦すべし

第二　聖書練習問題

一、山上の說教ハ馬太傳何章ヨあるや

二、路加傳ヨハ何章ヨあるや

三、主の祈禱ハ何處ヨあるや

四、馬太傳二章よりイエスよつぎ如何ある話あるや
五、同三章よりイエスよ如何なる話あるや
六、同四章につきイエスよ如何なる話あるや
七、四福音の次の四卷に何々なるや
八、其に續く四の短き手書に何々なるや
九、馬三〇一甕四十〇三、詩九十一〇十一、十二雅四〇七、來二〇十八、詩四十五〇
一一八、七十二〇一一十一凡て右の書を見出すべし

第三　日課物語

此の課より路加傳に記載するところの事蹟を記しまた馬太傳よ載するところと相比較以て話を完全になしかつ順序を正しく續けたり
此の章に山上の説教の後にありし事を記載す、即ちカペナオムにて百夫の長の僕をいやし玉ひしこと、ナインの寡婦の息子蘇生されしこと、バプテスマのヨハネ最終の使者重荷を負る者にむかひキリストの慈悲ある言、又罪を犯せし婦イエスに膏を抹りたることあり、凡て此等の事蹟を問題に記す

第四　日課筆答問題　註二十九を見よ

日曜日　午後路加傳七章一節より十節まで
月曜日　馬太傳八章五節より十三節まで

一、山上の説教後イエス何處よ行きしや　路七〇一、
二、誰が何故イエスの許に使者を遣はせしや　二、三節
此の百夫の長はユダヤ人にあらず、ローマの兵隊よりして百人の兵卒の上よ立つ人なり
三、此の百夫の長に如何なる人なるやまたユダヤ人にいかあることをおしたるや　四、五節

四、彼家より歸る途中イエスより如何なる使者を遣りしや　六、七節

五、百夫の長の信仰よつきイエス人々より何と曰玉ひしや　九節

六、僕いいかにおりしや　十節（太八〇十三引合）

七、遠く離れたるところよりてイエスのなし玉ひし奇跡此の外記憶するや

八、イエス此等の人々を見ずして其病をいやし得るハ何故か　約四〇四十六―五十四、

火曜日　路加傳七章十一節より十七節まで

九、次日イエス何處に行きしや　十一節

十、カペナオムより何里あるや並より其方角如何地圖を見よ

十一、市にて如何なる悲哀ある群に出逢しや　十二節

十二、歎きをる婦にイエス何と曰玉ひしや　十三節

十三、其息子をいかにして甦らせしや　十四、十五節口答

十四、之れを見て人々互より何と曰しや　十六、十七節

水曜日　路加傳七章十八節より三十五節まで

木曜日　馬太傳十一章一節より十九節まで

十五、イエス多の異能なる奇跡を行ひしときバプテスマのヨハネ何處よりしや　太十一〇二、

十六、何故ヨハネは當時其處よをりしや　路三〇十九、二十、

十七、彼イエスよ如何なる使者を遣ハせしや　路七〇十九、

十八、使者の前よてイエスいかなることをなせしやまたヨハヂに如何なる返答をなせしや　二十一、二十二節　口答

十九、ヨハヂの使者去りし後イエス人々よ向ひ如何なることを語りしや

二十四―二十八節

金曜日　馬太傳十一章二十節より三十節まで

二十、天父がイエスよおし玉ひしことよつきて何といひ玉ひしや　二十七節初め

廿一、誰よりて天よいます我儕の父を識り得るや　二十七節終り

廿二、凡て勞れたる者また重を負る者に如何なる善き約束をなし玉ひしや

土曜日　路加傳七章三十六節より五十節まで　二十八―三十節暗誦すべし

廿三、イエスを家よ招きしものハ何人なるや　三十六節

廿四、其處に來りしものハ誰なるか彼如何なることをおせしや　三十七、三十八節

客の來りし時接吻し洗水をいだし又ハ膏を塗等の事はユダヤ人の風習よして之れ客よ尊敬を表すのしるし也、パリサイ人ハ厚くイエスを優待せんとせしなれバ右の諸禮をなせしならん

廿五、此の婦ハパリサイ人よりも猶イエスを深く愛しをるといふことを示さんために如何なる話を語りしや　四十―四十七節　口答

廿六、イエス婦に何といひ玉ひしや　四十八と五十節

廿七、何故ゝ婦ゝ如此イエスを深く愛せしや

答　イエスゝ婦の罪を悉くゆるし玉ひしが故なり

廿八、何故ゝ其罪をゆるし玉へるや

答　彼の婦ゝ其罪を悔改めイエスを信せしが故なり

廿九、我儕罪のゆるしを願ふ者れが何をなすべきや

第五　隨意の課につきて第十三章註三十を見るべし

第十六章　第二ガリラヤ巡回傳道パリサイ人と第一の激論

路加傳八章一節より三節、十九節より二十一節まで同十一章十四節より五十四節まで馬可傳三章二十節より三十五節まで馬太傳十二章廿二節より五十節まで

銘句　我と偕ならざる者ゝ我に背き我と偕ゝ歛ざる者ゝ散らすなり

太十二〇三十、

馬可傳三章二十節より三十五節まで朗讀すべし

第一　復習問題　註二十七を見るべし

一、山上の説教の後直にカペナオムにてなし玉へる奇跡ゝ何か

二、其奇跡の他に異るところゝ何か

三、次日ゝ於て死より甦されしものは誰の息子なるや

四、イエスの大なる奇跡をみて人々互に何と言しや

五、此の時バプテスマのヨハネゝ何處にをりしやこれゝ何故なるや

六、ヨハネゝ如何なる使者をイエスに遣はせしや

七、イエス之れゝ何と答へしや

八、パリサイ人の家ゝをりし時イエスの足ゝ膏を抹りしものゝ誰なるや

九、イエス其婦に何をなせしや

十、此章の題は何か

十一、銘句を暗誦すべし

第二　聖書練習問題

一、路加傳七章にイエスよつきて四話あり各述ぶべし

二、馬太傳十章二節より四節よ何人の名を記すや　二人づゝ暗誦すべし

三、馬太傳十一章二十八節より三十節迄に重荷を負へる者にハ如何ある慈あ
る約束をなせしや

四、詩篇五十一篇一節默示錄二十二章十七節約翰傳三章十六節を暗誦せよ

五、新約全書初の四卷を述べよ

六、其に次での四卷ハ何か

七、また其に次での四卷ハ何か

八、舊約書初の五卷を述よ

第三　日課物語

此の章ハ基督が十二使徒と偕にあせし第二ガリラヤ巡回傳道の初歩を記し又パリサイ人との激論即ち彼等イエスハ惡鬼の王ベルゼブルに藉り鬼を逐出すなりと曰此事につき多人イエスの許に來り其が爲よ食事の暇もなかりし程なりまた彼の親屬も彼ハ狂氣せりと言て之を拏んとて來る然ど群集に
より近づくことを得ずイエス手をひろげ其弟子よ曰けるは我兄弟我母ハ誰
ぞやと此事ハイエス傳道の第二年の中頃なりしならん

第四　日課　筆答問題　註二十九を見よ

日曜日　午後　路加傳八章一節より三節まで馬可傳三章二十節
より二十七節まで

一、イエス書を抹られし後何處よ行しや其旅行中にて如何なることをなせし
や　路八〇一、

二、彼と偕よ行し者ハ誰なるか彼等ハ何をなせしや　路八〇一―三、

附言　此旅行よつきて少し記載する處ありされどある人ハ此の前の章にあ
る如くナインよ行たるときよ初まりしならんと曰ふ

三、イエスカペナオムに歸るとき人々彼に對する有樣の如何　可三〇二十、

四、其親屬イエスを何と曰しや　可三〇二十一

月曜日　馬太傳十二章二十二節より三十節まで路加傳十一章四節より二十三節まで引合

五、イエスに携來りしものの誰なるや其人いかになされしや　太十二〇二十二、

六、此事をなせしに由り人々イエスを誰と考へしや　太十二〇二十三、

附言　ダビデの子との待望みしメシヤと曰意義あり

七、キリストの力を挫折ん爲にいかなる攻擊をなせしや　二十四節

八、イエス彼に如何に答へしや

答、サタンがサタンを逐出すなどのことの最も愚なる思考なることを示せり　二十五、二十六節

九、イエスの誰によりて鬼を逐出し玉ふや　二十八、路十一〇二十引合すべし

十、パリサイ人達イエスに逆ふは其實誰に逆ふと同玄きや　口答

十一、イエスと偕に働かざるものの何をなしつゝあるや　太十二〇二十、銘句

火曜日　馬太傳十二章三十一節より三十七節まで馬可傳三章二十八節より三十節までを引合すべし

十二、如何なる罪を犯すものはゆるす能まと曰玉ひしや

太十二〇三十一、三十二、可三〇二十八、二十九、引合

附言　キリストの生涯と且其奇跡をなし玉ふとハ全く聖靈の力に滿され玉ふと明あり、しかるにパリサイ人等イエスハ悪鬼に憑れたりといふ之却てかゝる言を發するものこそ此の恐るべき罪を犯すの憂あり

水曜日　馬太傳十二章三十八節より四十五節まで

木曜日　路加傳十一章二十四節より三十六節まで

十三、パリサイ人イエスに如何なることを尋ねしや　太十二〇三十八、

十四、如何なる休徴のみ彼等ヨ與へらるゝと曰玉ひしや　三十九節、

十五、此の休徴の意味ハ如何　四十節

答　イエスハ死にて葬られ三日目に甦り眞ヨ神の子たるを証する意味なり

十六、此の事ヨつきてイエス前に如何に諷せしことあるや　約二〇十八―二十一、

金曜日　馬太傳十二章四十六節より五十節まで馬可傳三章三十一節より三十五節まで路加傳八章十九節より二十一節まで引合すべし

十七、イエス教をなし玉ふ最中ヨ尋ね來りし者ハ誰なるや　太十二〇四十六、

十八、彼等の來りしハイエスを助勢ん爲なるや或ハ其行し玉へることを好しとせざるが故ヨ之を止めんために來りしや　可三〇廿一、

十九、如何ある人ぞこれイエスの兄弟なるや　太十二〇四十九、五十、

二十、イエスの答ハ其親屬を戒むるためか或ハ其弟子達を斷すためなるか

土曜日　路加傳十一章三十七節より五十四節まで

廿一、イエスを食事に招きしものゝ誰なるや　三十七節

廿二、イエスゝ如何なることをなしてパリサイ人を驚かせしや　卅八節

附言　手を洗ふとゝ清の爲よあらず只パリサイ人が守るところの儀式なり

廿三、パリサイ人ゝ此等の儀式を固く守るよも關ゝらず如何ある人々ありと曰玉ひしや　三十九節と四十節より四十四節迄

廿四、此の言により彼等ゝ心にいかなる感じを起せしや　五十三、五十四節

第六篇　續き

パリヲヤ傳道の續き大に其働を擴め給ひし期人々の中にイエスを信ずる者の增加たることとパリサイ人反對の增進

附言　既に此篇中にある四章ゝ學びたり此の外同篇中よ五の章あり左の註に於て之を示さん　第十三章註二十六を見よ

註卅一、是迄よ學びきたれる篇と章との主題をよく心に銘じおかんとする者の爲めに簡短にして第一篇より第六篇の終までを左に記すべし左よ記すところの略題ゝ屢復習すること必要あり即ち各篇各章に於てありし事蹟を暗記せしめ且つ復習の章にて示せし如く其事蹟の何處にてありしや或ゝ何處に記せるやなど凡て此等のキリスト生涯中よありし事柄を記憶することゝ肝要なり

第一篇　降誕幷よ三十年間　第一章、道肉体とある　第二章、幼時と青年との時代

第二篇　傳道の準備　第三章、洗禮　第四章、試み　第五章、發揚されしと

第三篇　ユダヤ傳道の初歩　第六章、傳道の初まり　第七章、ガリラヤよ歸り玉ふ

第四篇　ガリラヤ傳道の初歩　第八章、會堂にて說敎す　第九章、四人をゑらむ　第十章、ガリラヤ第一巡回傳道

第五篇　變革の期　第十一章、安息日議論　第十二章、復習

第六篇　重おるガリラヤ傳道　第十三、十四章、使徒の撰山上の說敎　第十五章、パプテスマのヨハネ最後の音づれ　第十六章、第二ガリラヤ傳道パリサイ人との激論　第十七章、喩譬の第一集　第十八章、湖の東岸より第一の旅行　第十九章第三傳道　第二十章人望の極　第二十一章　人々より見棄られ玉ふこと

第十七章　基督傳敎の變革譬喩の第一集

銘句　是を言畢て呼りけるハ耳ありて聽ゆる者ハ聽くべし　路八〇八、終

馬太傳十三章一節より二十三節迄朗讀すべし

十節より十七節迄省くもよし

第一　日課

日曜日　午後　馬太傳十三章一節より十七節まで
月曜日　馬太傳十三章十八節より二十三節まで
火曜日　馬太傳十三章二十四節より三十五節まで
水曜日　馬太傳十三章三十六節より五十二節まで
木曜日　馬可傳四章一節より二十節まで
金曜日　馬可傳四章二十一節より三十四節まで
土曜日　路加傳八章四節より十八節まで

第二　復習問題

註卅二、註三十一ゟ記する篇又章の畧題ハ之れをよく心ゟ銘め易くなさんが爲にせり茲ゟ記する諸問題ハ生徒をして之れが概畧を記憶させんためにして此の如き復習問題ハ必要なり

日曜日午後と月曜日の課題

註卅三　左に記する諸問題をよく研究すべし而して暗記をよくなし教師の問ひし時にハ直に答へ得るやうにすべし

一、今學びつゝあるハ何篇なるや

二、註三十一に於て如何に畧しあるや

三、第一篇ハ何なるか其中にある二章の題は如何　註三十一を見よ

四、第一章中にあるキリストに就ての事蹟を述よ

約翰傳一章一節より三節迄並に十四節路加傳二章八節より廿節にあり

五、第二章中にある事蹟を述よ

馬太傳二章一節より二十三節まで路加傳二章四十節より五十二節まで

六、第二篇は何なるか其中にある三章の題ハ如何　註三十一を見よ

七、イエスの洗禮につきて如何なることを覺へをるや　太三〇十三—十七、

八、イエスの試につきて如何なることを覺へをるや三試を述よ　太四〇一—十一、

九、如何なる三方法によりてキリストハ世に識られ玉ひしや　約一〇二十九—三十四三十五—五十一、二〇一—十一、

十、此の篇に於てハキリストが幾ケ月許りを費やし玉へることを記載するや

十一、第三篇ハ何なるや其中の二章の題ハ如何

十二、キリストハ何處に如何にして其傳教を始玉ひしや　約二〇十三—廿五、

十三、夜イエスに語らんとて來りし者ハ誰なりしや　約三〇一—十五、

十四、聖書中最も美ハしき句ハ何なるや又た何處に記あるや

十五、此の初のユダヤ傳教に於て此の外他に知るところあるや　約三〇二十二より四〇三

十六、何故イエスハユダヤを去りガリラヤに行しや　太四〇十二、

十七、其途中何處にて休息し玉ひしや又たそこにて偖に語りし者ハ誰なるや　約四〇四—四十二、

十八、其處を地圖にて指示すべし

十九、此の篇に於てハキリストが何ケ月許りの間傳教し玉ひしことを記すや

二十、此の前の章題ハ何なるや

廿一、人々イエスの奇蹟を見て何人と思ひしや

廿二、パリサイ人ハ何といひしや

廿三、パリサイ人とハ如何なる人々をいふや

廿四、此の章題ハ何なるか

廿五、銘句を暗誦すべし

註廿四　此の章ハ復習問題を多くせし故ヨ聖書の練習問題を省けり

第三　筆答問題

註廿五　此の課目をよく研究せんとならば第十三章の註二十六より三十迄と第一章の註二より五迄を見るべし

教師も生徒もみな屢此の註をよく見るべし

日課ハ毎日少しづゝなすべし

火曜日と水曜日の課題

種播の譬　馬太傳十三章一節より九節まで馬可傳四章一節より九節まで路加傳八章四節より八節まで

一、此の前の章ヨて學びし事蹟のありし後イエスハ何處ヨ行き玉ひしや　太十三〇一、

二、イエスの許に集合來りしは何なるかイエス何をなし玉ひしや　太十三〇二、

三、此の前ヨイエス人々ヨ船より出で説教なし玉ひしハ何時なりしや　路五〇一―十一、

四、此の時イエスハ如何なる方法を以て人々に説きはじめ玉ひしや　太十三〇三、

五、譬とゝ何なるか

答　眞理をあらゝす簡短なる話をいふ

六、此の譬の第一は何なるや　太十三〇三終

七、如何なる四種類の地ゑ種子が落しや　左の引合を見るべし

一、馬太傳十三章四節

二、同　五節六節

三、同　七節

四、同　八節

附言　路傍とゝ籬をめぐらさゞる土地をいふなり

八、此の四種類の地ゑ落し種子ゝ如何になりしや七題に例ひ答を記すべし

一

二

三、

四、

木曜日の課題

譬の説明　路加傳八章九節より十五節まで馬太傳十三章十八節より二十三節まで馬可傳四章十三節より二十節まで

九、弟子達イエスに何を尋ねしや　路八〇九、

十、種とゝ何をさしていへるや　路八〇十一、

十一、路傍に謎らへしゝ如何なる人をさすや　十二節

十二、磽地に謎らへしゝ如何なる人をさすや　十三節

十三、棘に謎らへしゝ如何なる人をさすや　十四節

十四、沃地よ謎らへしゝ如何なる人をさすや　十五節

十五、我儕ゝ此の中よ於ていづれのものとなるべきや

金曜日の課題

四比喩　馬太傳十三章二十四節より三十三節まで馬可傳四章二十六節より三十四節まで

十六、此の四の譬の中よて其第一に於てゝ如何なる二種類の種子を示せるや　太十三〇二十四—三十、

註卅六　稗とゝ雜草の甚だ麥よ類似せるものよして益なきものなり此

の譬をよく讀み其中いづれよても話し得るやうよすべし

十七、此の譬の意味ゝ如何

答　此の世にゝ善惡二種の人ありされど世を終りし時に於てゝ善人と惡人を分ち玉ふといふ意味なり　太十三〇三十六—四十三、

十八、海邊にて語れる三譬にてイエスゝ天國を何よ比べしや

一、馬可四章二十六節より二十九節

二、馬太十三章三十一、三十二節

三、馬太十三章三十三節

十九、天國とゝ如何なる意味なるか

答　現世にてイエスが人々の心中よ建玉ふ善き國の事なり

二十、十八題よ示せる三譬の意味如何

答　天國といふものゝ最初ゝ現世よ於てもまた人の心靈よ於ても至て小さきものなれど遂にゝ廣大よ至るといふ意味なり

廿一、幾何の譬をイエスの海邊にて語り玉ひしや其主意如何六と十六十八題を見よ

土曜日の課題

家よりて弟子よ語り玉ひし三譬　馬太傳十三章四十四節より五十節まで

廿二、人々を離れ其弟子と偕に何處に行しや　太十三〇三十六

廿三、此の三譬中よ天國の何の如しといひしや

一、馬太十三章四十四節

二、同　四十五、四十六節

三、同　四十七節より五十節

廿四、此の三譬の中第一と第二との如何なる意味あるや

答　天國の甚だ尊きものたることを示す　四—四十六節を暗誦すべし

廿五、此の二譬により我儕もし天國を望むものには何をなすべき事を教るや

廿六、第三の譬の意味の如何　十七題を見よ

第四

各隨意に日課につきて記すべきことにつき第十三章註三十を見るべし

第十八章　湖の東方に第一の旅行をなし玉ふと著しき奇跡集銘句、此の如何なる人ぞ風も海も之よ從ひたり　太八〇二十七、

馬太傳八章十八節より三十四節まで朗讀すべし

第一　日課

附言　此の章に記する事蹟の馬可傳よ載するところに從ふまた馬太傳路加傳の二福音より補ひたり

日曜日　午後　馬可傳四章三十五節より四十一節まで路加傳八章二十二節より二十五節迄を引合すべし

月曜日　馬太傳八章十八節より二十七節まで路加傳九章五十七

節より六十二節までを引合すべし

火曜日　馬可傳五章一節より十節まで馬太傳八章二十八節二十九節路加傳八章廿六節より三十一節までを引合すべし

水曜日　馬可傳五章十一節より二十節まで馬太傳八章三十節より三十四節まで路加傳八章三十二節より三十九節までを引合すべし

木曜日　馬可傳五章二十一節より三十四節まで馬太傳九章十八節より二十二節まで路加傳八章四十節より四十八節までを引合すべし

金曜日　馬可傳五章三十五節より四十三節まで馬太傳九章二十三節より二十六節まで路加傳八章四十九節より五十六節まで

土曜日　馬太傳九章二十七節より三十四節まで

第二　復習問題　註三十一と三十二を見よ

日曜日午後と月曜日の課題　註三十三を見よ

一、註三十一に示せる一代記の初め三篇を述よ

二、其篇中にありし事蹟を順次に述よ　第十七章復習問題の三より十九を見よ

三、第四篇の題い何なるか其中にある三章の題を擧よ　註三十一を見よ

四、ユダヤよりガナに歸りし後如何なる奇蹟をなし玉ひしや　約四〇四十六―五十四、

五、イエスが人々より追出され玉ひしい何處なりしや　路四〇十六―三十、

六、四人の弟子を招き玉ふときになし玉ひたる奇蹟い何なりしや其時彼等に如何あることを命じ玉ひしや　路五〇一―十一可一〇十六―二十、

七、奇蹟の安息日にいかなること起りしや　可一〇二十一―三十四、

八、其後イエス四人の弟子とともに何處に行しや(可一〇二十五―三十九)そこにて人々より如何なる迎をうけしや　太四〇二十三―二十五、

九、其旅行中になし玉ひし奇跡の一を述よ　可一〇四十―四十五、

十、此後カペナオムにてあし玉ひし奇跡の一を述よ　可二〇一—十二、

十一、イエスの己より從いしめ玉ひし五番目の弟子の名い何と云や　可二〇十三、十四、

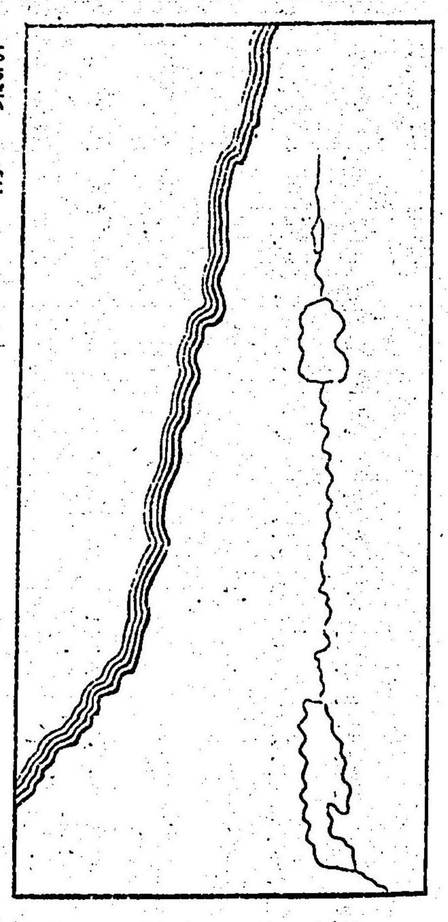
十二、第四篇い何ケ月許りなるや

十三、第五篇い何あるか其中にある章を擧げよ　註三十一を見よ

十四、パリサイ人がエルサレムガリラヤより於てイエスを殺さんと謀りしい何故あるや　約五〇一—十八、可三〇一—六、

十五、安息日にい如何なることをなすべしと敎へ玉ひしや　太十二〇十二、

十六、左より示す地圖にてイエスが是れ迄なし來りし旅行の路を示すべしまた其度數を算へよ



十七、此前の章題い何ありしや

十八、海邊より幾何の譬を語り玉ひしや其譬を悉く述よ

十九、家にありて幾何其弟子に語り玉ひしや其譬を悉く述よ

二十、此の章の題い如何

廿一、銘句を暗誦すべし

第三　筆答問題

茲に記するハ之れ奇蹟の課あり凡て此の課をよく研究し其話を述べうるやうに支度をなすべし又イエスが此等の奇跡を如何なる場合に當りて語り玉ひしやを考ふべし日課は少し毎日の分を記しおく可なり

火曜日の課題

暴風を靜め玉ふこと　馬可傳四章三十五節より四十一節まで馬太傳八章十八節より二十七節まで路加傳八章二十二節より二十五節までを引合すべし

一、此前の章に示せる終の譬を語りし後イエス其弟子と偕に何處に行しや　可四〇三十五、三十六、

二、途中にて如何なることが起りしや　三十七―三十九、口答三十九暗誦

三、此大奇跡をみし時人々互に何といひしや　四十一節餘句引合せよ

水曜日の課題

レギヨンを逐出すこと　馬可傳五章一節より廿一節まで馬太傳八章二十八節より三十四節まで路加傳八章廿六節より三十九節を引合すべし

四、海邊にてイエスに逢ひし者ハ何人なりしや　可五〇一、二、

五、其人如何にせしやイエス彼に何といひしや　六―八節口答

六、惡鬼の名ハ何といふや　九節

附言　レギヨンといふ語ハ夥多といふ意味ありローマ軍隊中にレギヨンと名くる隊あり兵卒六千人を以て組織す

七、惡鬼レギヨンハ何を望みたるやイエスが其願をゆるせし時ハ如何なることが起りしや　十―十三節口答

八、何故イエスハ直にカペナオムに歸りしや　十四―十七節特ニ十七節

九、此事の起りし場所を地圖よて示すべし　一、二十見よ

木曜日の課題

一婦人ぎリストの衣の裾よ捫りしこと　馬可傳五章二十一節より三十四節まで馬太傳九章十八節より二十二節路加傳八章四十一節より四十八節まで引合すべし

十、イエスカペナオムに歸りし時其許に來りし者い誰なるや此は何故なるや　二十二―二十三節

十一、其人の家に行かんとする時途よて如何なること起りしや　二十五―三十四節

金曜日の課題

ヤイロの娘　馬可傳五章三十五節より四十三節まで馬太傳九章廿三節より廿六節まで路加傳八章四十九節より五十六節までを引合すべし

十二、イエスヤイロの娘の死せしことをきゝ何といひ玉ひしや　三十五、三十六節

十三、其家に伴ひ玉ひし弟子い誰なるや　三十七節

十四、イエス其家に行し時よ其内の人々の有樣如何　三十八節

十五、イエス彼等よ何といひ玉ひしや　三十九節

十六、娘のをる處に伴いれし者い誰なりしや　四十節

十七、イエス何をなし玉ひしやまた何といひ玉ひしや　四十一節

十八、其時娘いかにせしや　四十二節

土曜日の課題